

ネットワークビデオデコーダー

取扱説明書

SPD-152

ネットワークビデオデコーダー

取扱説明書

Copyright

©2022Hanwha Vision Co., Ltd.All rights reserved.

Trademark

本書に記載されている各商標は登録済みです。本書に記載されている本製品の名称およびその他の商標は、各社の登録商標です。

制約について

本書は著作権によって保護されています。どのような状況であっても、本書の一部または全体を複製、配布または変更するには、正式な認可が必要です。

免責事項について

Hanwha Visionは取扱説明書の完全性および正確性について万全を期しておりますが、その内容について公式に保証するものではありません。この取扱説明書の使用およびその結果については、すべてユーザーが責任を負うことになります。Hanwha Visionは予告なくこの文書の内容を変更する場合があります。

保証について

正常な使用条件で製品を運用したにもかかわらず、製品が正常動作しない場合、Hanwha Visionで無料で修理いたします。保証期間は3年で、以下のような場合は保証対象に含まれません。

- システム運用と関係のないプログラムを実行してシステムが間違った動作をした場合
- 時間の経過による製品の変化または使用中の自然摩耗による異常
- 品質及び機能に影響を及ぼさない感覚的な現象（例：発生音）

❖設計および仕様は予告なく変更される場合があります。最新バージョンはHanwha VisionのWebサイトからダウンロードすることができます。(https://www.HanwhaVision.com)

❖初期の管理者IDは「admin」です。初回ログイン時にパスワードを設定する必要があります。個人情報を安全に保護し、情報漏洩の被害を防ぐため、3か月に1回パスワードを変更してください。パスワードの管理ミスによるセキュリティ及びその他の問題は、ユーザー側の責任となりますことを御了承ください。

重要な安全ガイド

この製品を適正に使用し、リスクやダメージを防ぐため、以下の注意事項に留意してください。

警告/注意

 警告	重度のケガ、死亡する危険性がある内容です。	 注意	装置を損傷したり軽度のケガを負ったりする危険性がある内容です。
---	-----------------------	---	---------------------------------

警告

- 1つのコンセントに複数の電源コードを接続（タコ足接続）しないでください。火災の原因となります。
- 製品の上に水または他の液体が入った容器を置かないでください。製品の故障及び火災の原因となります。
- 電源コードを無理やり曲げたり、重いものに押さえられ破損しないようにしてください。火災の原因となります。
- 製品のカバーを開けないでください。また、分解・修理・改造しないでください。異常作動による火災・感電・傷害の危険があります。
- 湿気や誇りが多い環境に設置しないでください。火災・感電の原因となります。
- 電源コードを過剰に強く引っ張らないでください。また、濡れた手で触らないでください。火災・感電の危険があります。
- 製品の設置環境を誇りがないように綺麗にしてクリーニングには乾燥した柔らかい布を使用し、水、シンナーあるいは有機溶剤を使用しないでください。製品の表面をキズ付く恐れがあるし、故障・感電の危険があります。
- ラジエーター、熱レジスタ、あるいは熱を発する他の装置（アンプを含む）など熱源の近くに設置しないで下さい。火災の危険があります。
- 電源ケーブル及び外部入出力ポートが突出されてありますので製品を壁に近く設置するとケーブルが曲がったり押さえられ破損及び断線する恐れがあります。壁から製品の背面は15cm以上、側面は5cm以上離れて設置してください。
- 本製品の動作のための入力電圧は電圧変動範囲が規定電圧の10%以内であるべきで電源コンセントは必ず接地になっていなければなりません。
- 柔らかく乾いた布か湿った布で製品表面の汚れた部分を拭き取ります。（アルコール成分、溶剤、界面活性剤や油分を含む洗剤や化粧品を使用しないでください。製品の変形や損傷につながる恐れがあります。）

注意

- 強い磁性や電波がある場所ラジオ・TVなどの無線機器の隣接した場所は設置を避けてください。
- 製品の上に重い物を置かないでください。また、内部に異質物が入らないようにしてください。
- 換気がいいところに設置して直射日光や熱にさらさないでください。
- 製品は必ず安定した平らな場所に設置して垂直及び斜めにしては使用しないでください。
- 強い衝撃及び振動は機器故障の原因になりますので使用時注意してください。
- 異常な音または臭いがする場合は直ちに電源を切って販売店に問い合わせしてください。
- システムの性能を維持するためには販売店に依頼して定期的な点検をしてください。
- 必ず接地されたコンセントに電源ケーブルを連結してください。
- この製品は「Class 2」、「LPS」、「PS2」のうち1つに分類され、12 Vdc、0.92 AまたはPoE(48 Vdc)、0.27 A等級の電源供給装置を使用するように製作されました。
- IEEE 802.3.afに従ってイーサネット電源装置(PoE)を供給する無線LAN/ハブは、UL60950-1で定義された制限動力源または、UL62368-1で定義されたPS2に該当する出力のUL承認装置でなければなりません。

製品取扱説明書の案内

本製品の取扱説明書は、製品を使用するのに必要な情報を提供し、製品に関する簡単な紹介と各部分の名称、機能、接続方法、メニュー設定など、製品の使用に必要な内容を含めています。製品を使用する前に本製品の取扱説明書を確認してから正しく製品を使用してください。

- 本説明書は、製品の初期値と基本画面を基準として使用法を説明します。
- 本説明書に書かれた内容は、製品のソフトウェアアップデートと当社のポリシーなどによって異なることがあり、ユーザーに通報なく一部変更されることがあります。
- 規格外品を使用したり、製品取扱説明書に記載されていない使用方法による損傷につき、当社は責任を負いませんのでご注意ください。
- 故障修理のために製品のケースを開けて内部に手を出す必要がある場合は、必ず製品の購入先に問い合わせて専門家の助けを受けてください。

対象読者の案内

本説明書は、デコーダーを使用するユーザーのための内容が含まれています。

製品取扱の案内

本製品のユーザーは下記のような作業を行うことができます。

- デコーダーに登録済みのカメラをリアルタイムでモニタリングする

本製品を使用する前に製品が最新S/Wバージョンであるか確認してください。Hanwha Visionの製品ホームページ (<https://www.HanwhaVision.com>)でS/Wバージョンを確認してダウンロードすることができます。

概要

警告

バッテリー

製品内部のバッテリーを間違って交換した場合は爆発の恐れがあります。必ず同じバッテリーを使用してください。
現在使用中のバッテリーの仕様は次の通りです。

- 電圧: 3V
- 許容量: 210mAh
- 持続標準負荷: 0.4mA
- 使用可能温度: -20° C ~ +60° C



- 直射日光の当たる場所や暖房器具などの熱を出す場所にバッテリーを置かないでください。

動作温度

本製品の動作可能温度は0°C~40°Cです。動作温度より低温で長時間放置した場合は、使用時に機器が動作しないこともあります。このような場合は、常温で一定時間を保管してから使用してください。

セキュリティについて

初期の管理者IDは「admin」で、初回ログイン時にパスワードを設定する必要があります。個人情報を安全に保護し、情報漏洩の被害を防ぐため、3か月に1回パスワードを変更してください。パスワードの管理ミスによるセキュリティ及びその他の問題は、ユーザー側の責任となりますことを御了承ください。

概要	3	重要な安全ガイド	ライブ	17	ライブ画面構築
3	3	製品取扱説明書の案内			18 システムス状態確認
	3	対象読者の案内			18 カメラリスト確認
	3	製品取扱の案内			19 ライブ画面メニュー
	4	警告			20 ライブ画面アイコン
	5	目次			20 OSD情報表示
	7	特徴			21 チャンネル情報表示
	7	パッケージ内容			21 カメラ状態確認
	7	製品の名称および機能			22 チャンネル設定
					22 分割モード変更
					22 全アスペクト比の変更
					23 全画面モード
設置	8	マルチアダプターの装着			23 レイアウト設定
8	8	モニターのVESAホールに取り付ける			23 レイアウトリスト確認
	9	スタッドボルトを利用して装着する			24 レイアウト追加および名前設定
	9	ポールに取り付ける			24 レイアウトを削除する
					24 レイアウトチャンネルおよび名前変更
					24 動的レイアウト
					26 レイアウトシーケンス再生
					26 オートシーケンス再生
接続する	10	外部デバイスへの接続			27 カメラ映像制御
10	10	USBの接続			27 キャプチャー
	10	電源の接続			27 温度検知モード
	10	イーサネットでの電源の接続			28 PTZモード
	11	アース線の接続			28 拡大
	11	アース線の推奨仕様			28 音声
	11	ネットワークへの接続			29 チャンネルアスペクト比の変更
	11	イーサネット（10/100/1000BaseT）によるネットワーク接続			29 PTZ制御
	11	共有器を利用したネットワーク接続			29 PTZを開始する
	11	ネットワークカメラの接続			29 PTZ制御モード
					30 デジタルPTZ(D-PTZ)機能活用
					30 プリセット設定
					31 プリセット実行
					31 スイング(オートパン)、グループ(スキャン)、ツアー、トラッキング(パターン)実行
開始する	12	システムを起動する			
12	12	システムログイン			
	13	システムの操作モード設定			
	13	インストールウィザード			
	16	シャットダウン			
	16	システム再起動			

設定	32
32	設定画面構築
32	カメラ設定
32	32 チャンネル設定
35	カメラ機能設定
36	プロファイル設定
39	カメラのパスワード設定
39	デバイス設定
39	39 モニター
41	ネットワーク設定
41	41 IP&ポート
42	IP&MACフィルタリング
43	HTTPS
44	802.1x
44	SNMP
45	システム設定
45	45 日付/時刻/言語
46	ユーザー
48	システム管理
50	ログ

ライブビューア	54
54	ライブビューア画面構築
54	ユーザー情報の確認
55	カメラリスト確認
55	全体カメラの状態確認
55	55 ライブステータス確認
55	分割モード変更
56	レイアウト設定
56	56 レイアウトリスト確認
56	レイアウトの追加
56	レイアウト名の変更
56	レイアウトチャンネル変更
56	レイアウトを削除する

設定ビューア	57
57	設定ビューア画面構築
57	カメラ設定
57	57 チャンネル設定
57	カメラ設定
58	プロファイル設定
59	カメラのパスワード
59	デバイス設定
59	59 モニター
60	ネットワーク設定
60	60 IP&ポート
60	IP&MACフィルタリング
60	HTTPS
61	802.1x
61	SNMP
61	システム設定
61	61 日付/時刻/言語
62	ユーザー
62	システム管理
63	ログ

ウェブビューアの開始	51
51	ウェブビューアとは
51	51 主な機能
51	システム要求事項
51	ウェブビューアの接続
51	デコーダーのパスワード設定
52	インストールウィザード

付録	64
64	仮想キーボードの使用
64	よくあるご質問(FAQ)

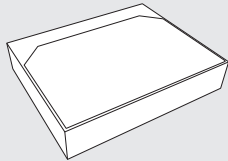
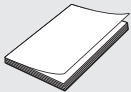
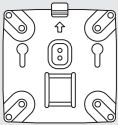
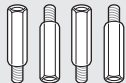
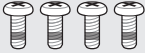
特徴

本製品はネットワークカメラの映像および音声のモニタリングができます。
PCで本製品を設定できる環境を提供します。

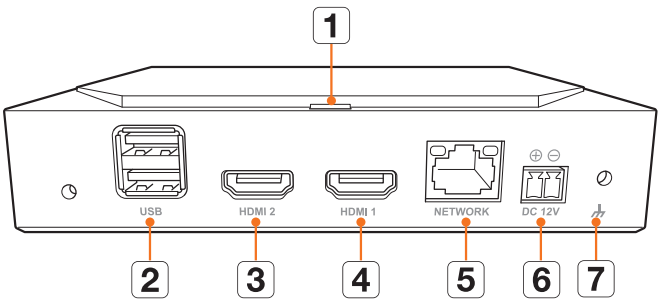
- 新型UI 2.0提供
- レイアウトシーケンス再生機能
- 熱画像カメラ/PTZ同期カメラサポート
- 様々な4Kカメラ解像度サポート
- HDMIを用いた4K高画質映像出力
- デュアルモニター出力サポート(外付け、クローン)
- ONVIF Profile S及び標準RTP/RTSPプロトコルサポート
- 64チャンネル同時出力
- ネットワークカメラのライブモニタリングサポート
- インストールウィザード機能(本体、Web Viewer)

パッケージ内容

製品の梱包を解いて平らな場所または設置場所に置いてください。本体以外に、以下の付属品がパッケージに梱包されていることを確認してください。

		
デコーダー	マウス	クイックガイド
		
マルチアダプター	ターミナルブロック	M4 L20スタッド(VESAホール装着用、4本)
		
M4 L8ネジ (マルチアダプター装着用、4本)	M3 L6ネジ (デコーダー底面のホール装着用、2本)	

製品の名称および機能



部品名		機能
1	LEDインジケータ	電源オン/オフ状態を表示します。
2	USB	USBデバイスを接続します。(USB2.0サポート)
3	HDMI 2	HDMI映像出力ポート。 • セカンダリモニタを接続するポートであり、最大1920x1080 60 Hzに対応します。
4	HDMI 1	HDMI映像出力ポート。 • プライマリモニタを接続するポートであり、最大3840x2160 30 Hzに対応します。
5	NETWORK	ネットワークおよびカメラ接続のためのポートです。 • PoEで電源供給が可能です。
6	DC 12V	指定された電源を接続する端子です。
7	アース接続	別途のアース線を接続するポートです。 • 安全なデバイス使用のため、アース線を追加してください。

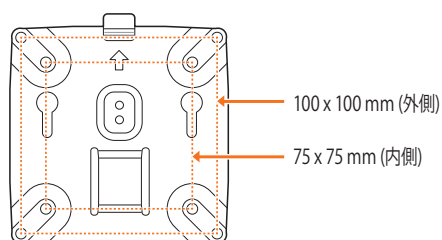
設置

製品を使用する前に、次のことに注意してください。

- 製品を屋外で使用しないでください。
- 製品に水または液体をこぼさないでください。
- 製品に強い衝撃や圧力を与えないでください。
- 電源プラグを強引に抜かないでください。
- ご自分で製品を分解しないでください。
- 定格の入力/出力範囲を超えないようにしてください。
- 認定された電源コードのみを使用してください。
- 入力アース付きの製品の場合は、アース付きの電源プラグを使用してください。

マルチアダプターの装着

マルチアダプターを利用してデコーダーをモニターのVESAホールまたはボールに取り付けて使用できます。
マルチアダプターは下記のVESA規格に対応しています。

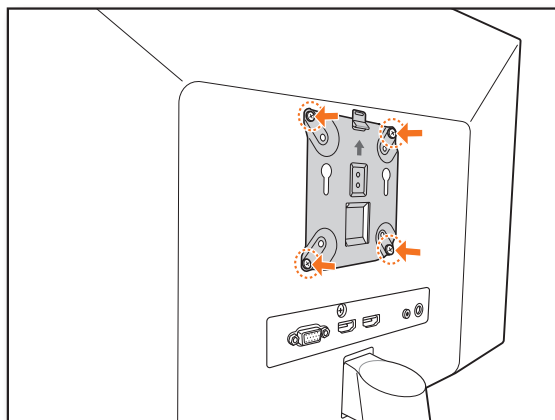


モニターのVESAホールに取り付ける

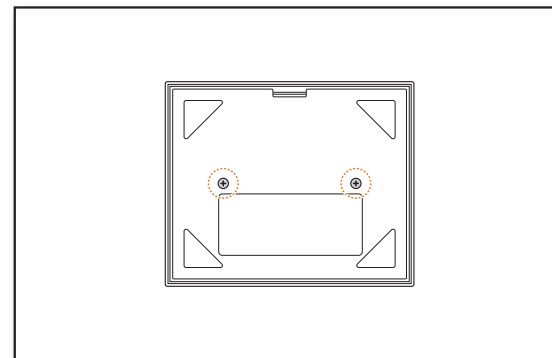
1. M4 L8ネジ4本を利用してマルチアダプターをモニターに固定してください。



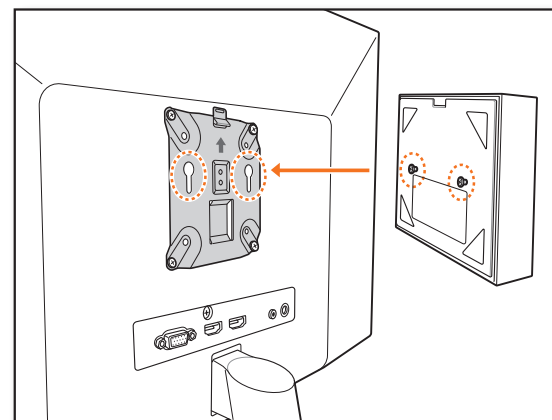
- マルチアダプターを取り付けるモニターのVESA規格を確認してください。



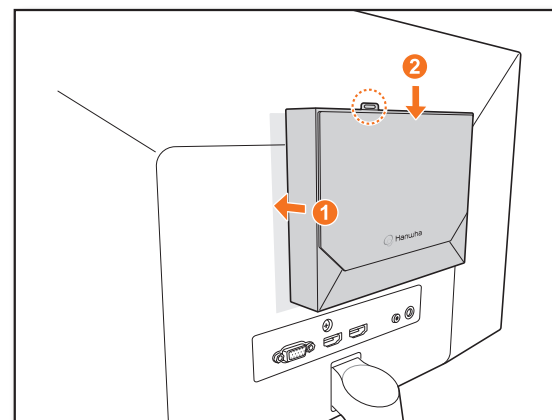
2. デコーダーの底面にM3 L6ネジ2本を締結してください。



3. デコーダーの底面のネジがマルチアダプターのネジ穴に入るように合わせてください。
 - デコーダーの接続ポートが下向きになるように取り付けてください。

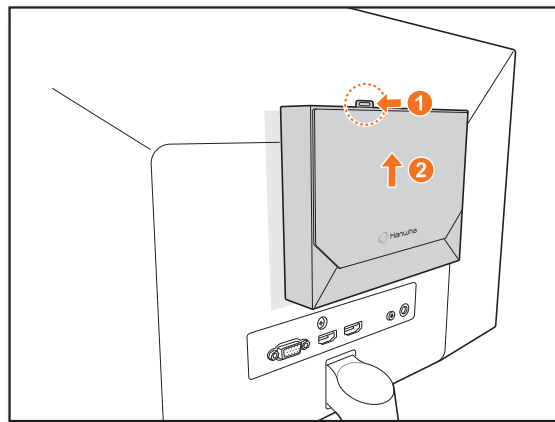


4. デコーダーをモニター側に押し付けた後、下に下げて固定してください。
 - マルチアダプターの金属スプリングが見えるまで、デコーダーを下に下げて固定してください。



マルチアダプターを取り外す

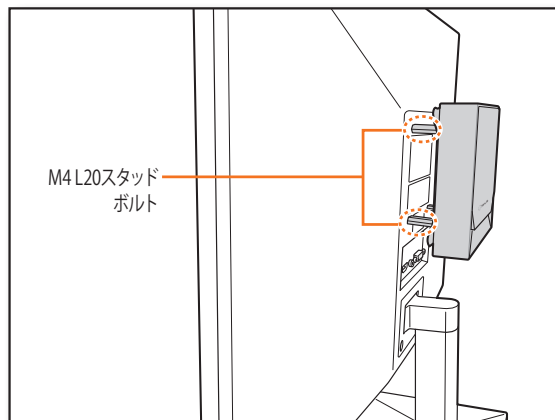
マルチアダプターの金属スプリングを押してる状態で、デコーダーを上に戻してください。



スタッドボルトを利用して装着する

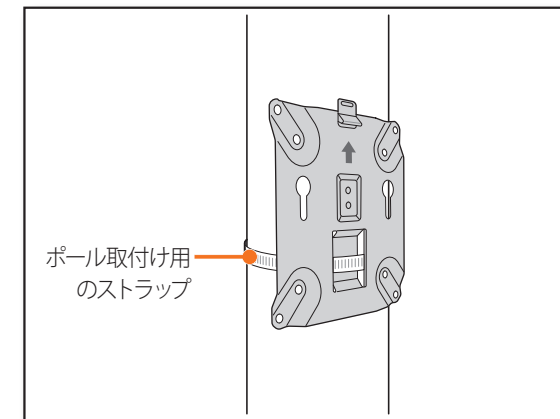
モニターのVESAホールの位置がモニターの接続ポートやスタンドに近い場合、モニターにデコーダーを直接取り付けられない場合は、スタッドネジを利用してデコーダーを装着できます。

モニター裏面のVESAホールにまず、M4 L20スタッドネジ4本を締結した後、マルチアダプターを取り付けてください。

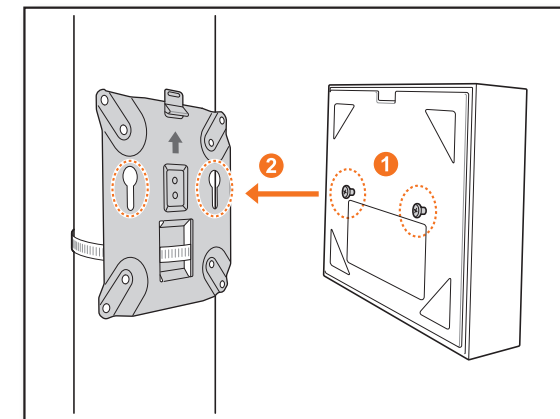


ポールに取り付ける

1. ストラップを利用してマルチアダプターをポールに取り付けてください。



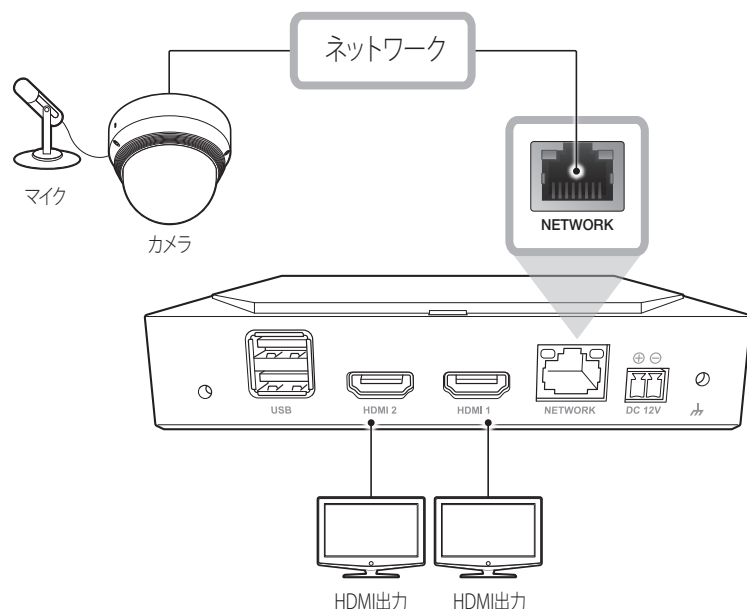
2. デコーダーの底面にM3 L6ネジ2本を締結した後、マルチアダプターにデコーダーを取り付けてください。



■ ポール装着用のストラップ(SBP-100S)は別売品です。

接続する

外部デバイスへの接続

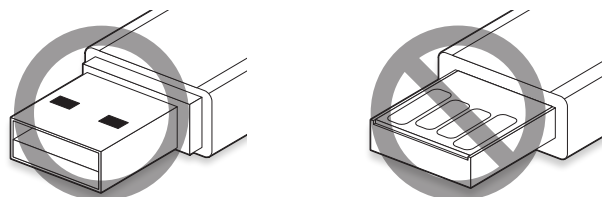


- ❗ ■ 定格外または不適切な電源を使用するとシステムが損傷する場合があります。電源ボタンを押す前に、定格電源を使用していることを確認してください。

USBの接続

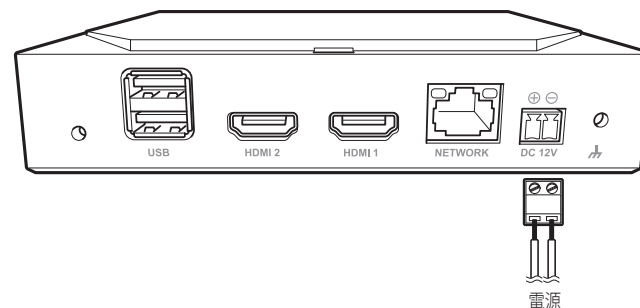
1. 製品の前面にUSB接続用のポートがあります。
2. USBメモリまたはマウスをUSBポートに接続することができます。
3. この製品にはホットプラグ機能がサポートされているため、システム動作中にUSBデバイスの接続と取外しが可能です。

- ❗ ■ USBデバイスによっては互換性の問題で正常動作しない可能性がありますので、事前確認をお願いいたします。
- USBメモリを認識できない場合は、「設定 > システム > システム管理 > 設定管理」メニューでフォーマットしてから使用してください。
 - 規格品（メタルカバータイプ）USBデバイス以外には動作保証は出来ません。
 - USBコネクタピンへの磨耗によってUSB信号の読取が悪くなる可能性があります。



電源の接続

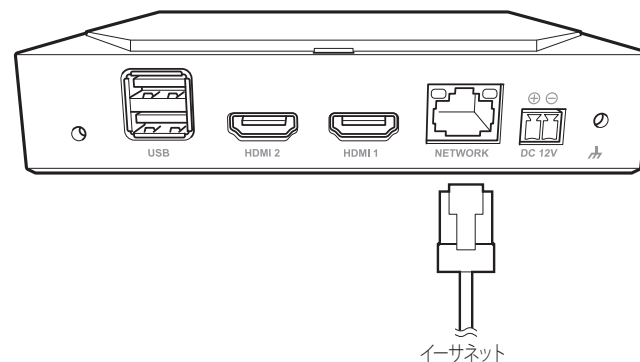
通常のイーサネットケーブルを使用する場合は、電源供給のために電源アダプタを接続してください。
電源アダプターの(+)線を、ドライバーを使用してネットワークビデオデコーダーの電源入力ポートに接続してください。



イーサネットで電源の接続

電源アダプター接続なしにPoEスイッチから電源を別途供給し、接続できます。

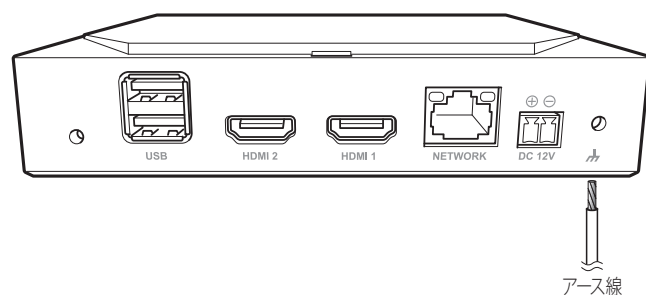
- PoE電力仕様は下記をご参照ください。
 - 使用電源：PoE(IEEE802.3af)



- ❗ ■ PoE、DC 12V電源を同時投入時、機器の電源は外部電源(DC 12V)で動作します。
- PoE機能が可能なルーターを使用して接続すると、別途の電源を接続しなくても使用できます。
 - PoEは、IEEE 802.3at規格に対応するデバイスを使用してください。
 - DC 12Vは極性がありますので、注意して接続してください。
 - 外部機器を接続する際には、必ず接続されるデバイスの電源を切った状態で接続してください。
 - セットとアダプターの電源線を先に接続した後、壁の電源の220Vを差し込みます。
 - アダプター出力ケーブルを延長して使用しないでください。
 - 電源ケーブルの延長が必要な場合は、サービスセンターにお問い合わせください。

アース線の接続

電源入力ポートの右側にあるFGネジにドライバーを使用してアース線を接続してください。



- アースは落雷から製品を保護する役割をします。
- 必ずデバイスの電源を切った状態で接続してください。

アース線の推奨仕様

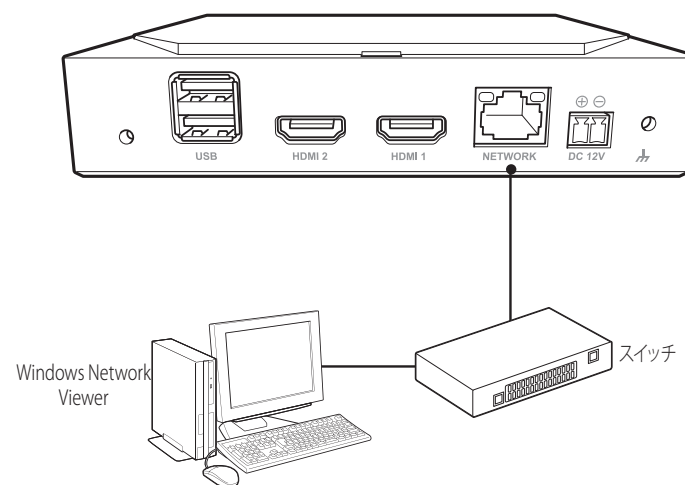
- ・ 長さ: 3M以内
- ・ 外径: 18AWG以上 例) UL1007 AWG18/16, UL1015 AWG18/16/14/12, UL2468 AWG18/16/14

ネットワークへの接続

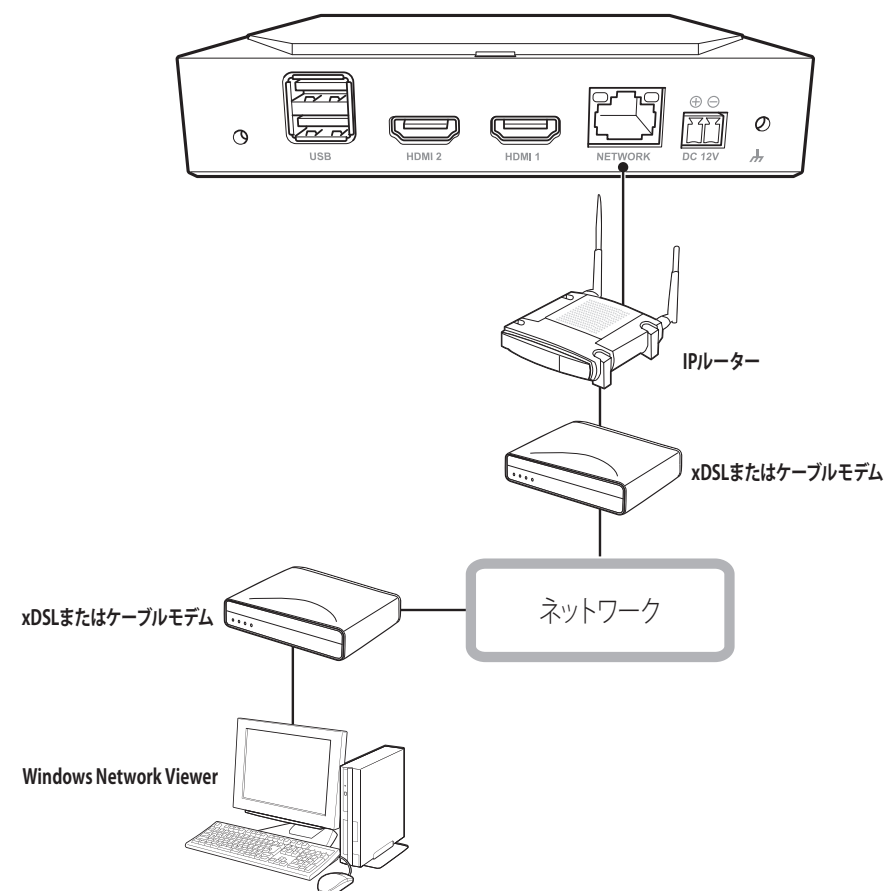


- ネットワーク接続に関する詳細情報は、取扱説明書の「ネットワーク設定」をご参照ください。

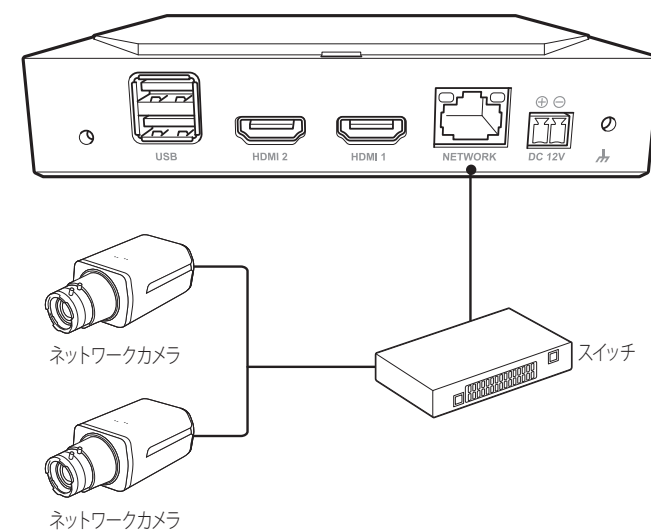
イーサネット (10/100/1000BaseT) によるネットワーク接続



共有器を利用したネットワーク接続



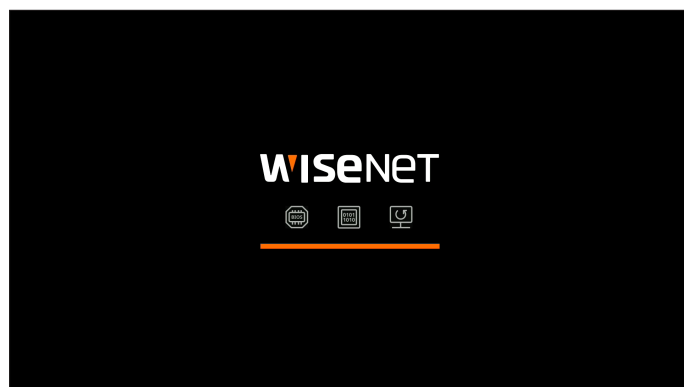
ネットワークカメラの接続



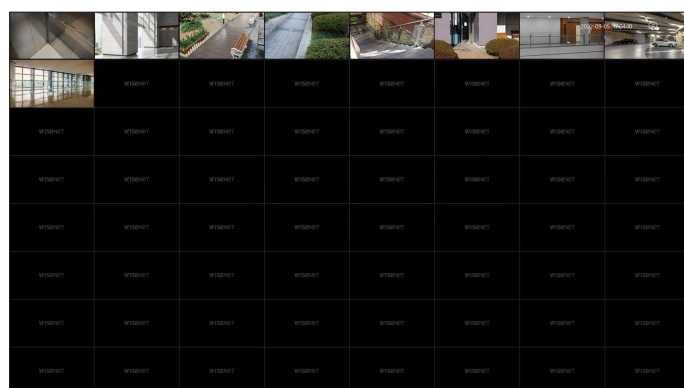
開始する

システムを起動する

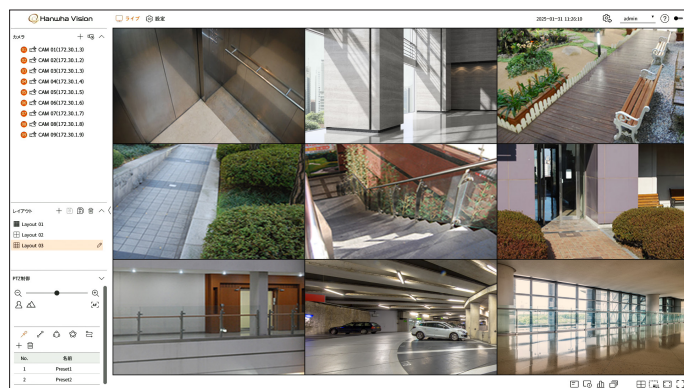
1. デコーダーの電源を接続してください。
2. 初期化画面が表示されます。



3. 初期化が完了したら、全画面モードのライブ画面が表示されます。



4. 全画面モードから出るには、画面の下でマウスオーバーすると表示される<≡>をクリックしてください。



- <スタンドアロン> 操作モードの場合のみ全画面モードから出られます。

システムログイン

デコーダーメニューの利用は、該当メニューのアクセス権限を持つユーザーでログインした状態でのみ可能です。

1. 画面の右上で<ログイン>を選択してください。
2. <ログイン>ウィンドウが表示されます。
3. ユーザーIDとパスワードを入力した後、<ログイン>をクリックしてください。



- 初期の管理者IDは「admin」に設定され、インストールウィザードでパスワードを設定する必要があります。
- 個人情報を安全に保護し、情報の漏洩を防ぐため、パスワードは3か月ごとに変更してください。パスワードの管理ミスによるセキュリティ及びその他の問題は、ユーザー側の責任となりますことを御了承ください。

- アクセスが制限された権限に対する詳細は目次の「設定 > システム設定 > ユーザー」ページをご参照ください。

システムの操作モード設定

管理者権限がある場合、デコーダーを制御できる操作モードを選択できます。

1. 画面の右上で<🔧>を選択してください。
2. <操作モード>設定ウィンドウが表示されます。



3. 操作モードを選択した後、<変更>をクリックしてください。
 - スタンドアロン：デコーダーで、該当カメラのライブモニタリングと設定変更などの制御ができます。ウェブビューアでは、管理者アカウント情報と操作モードのみ変更できます。
 - WEB：デコーダーでは、該当カメラのライブモニタリングのみ可能で、設定変更や制御はウェブビューアでのみできます。
 - SSM：デコーダーではこのカメラのライブモニタリングのみ可能で、設定の変更や制御はSSMでのみ行えます。
4. 操作モードを変更すると、デコーダーが再起動し、設定されたレイアウトは初期化されます。

インストールウィザード

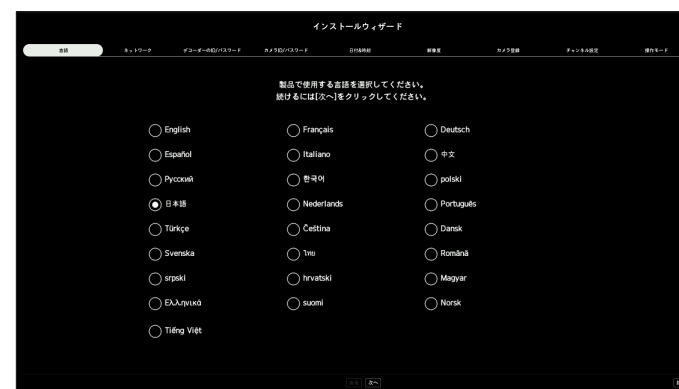
以下のように<インストールウィザード>を段階別に行います。

インストールウィザードは出荷時の状態でのみ進入でき、行いたくない場合は<終了>をクリックしてください。



- 最適なモニター解像度に自動的に変更され、インストールウィザードが実行されます。
- もしインストールウィザードが実行されない場合は、デコーダーの裏面からモニター接続を取り除いた後、デコーダーを再起動してモニターを再接続してください。

1. <言語>画面で、言語を選択し、<次へ> ボタンを選択します。



2. <ネットワーク>画面でネットワーク接続方式と接続環境を設定した後、<次へ>をクリックしてください。



ネットワーク設定

- ネットワーク(すべて)：カメラとウェブビューア接続のための共通ポートとして使用できます。
- 設定
 - IPタイプ：ネットワーク接続タイプを選択できます。
 - IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS
 - マニュアル：IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSを直接入力できます。
 - DHCP：IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ値を自動に設定できます。

オンラインアップグレード

デコーダーがネットワークに接続されると、新規ファームウェア通知を受信することができます。

開始する

3. <デコーダーのID/パスワード>>画面で管理者のパスワードを設定した後、<次へ>をクリックしてください。

<①>をクリックすると、パスワード設定のための基本ガイドが表示されます。パスワード設定規則をご確認ください。

4. <カメラID/パスワード>画面で工場出荷時の状態のカメラのパスワードを設定してください。

カメラにID/パスワードが既に設定された場合、該当のID/パスワードの登録後、<次へ>をクリックしてください。

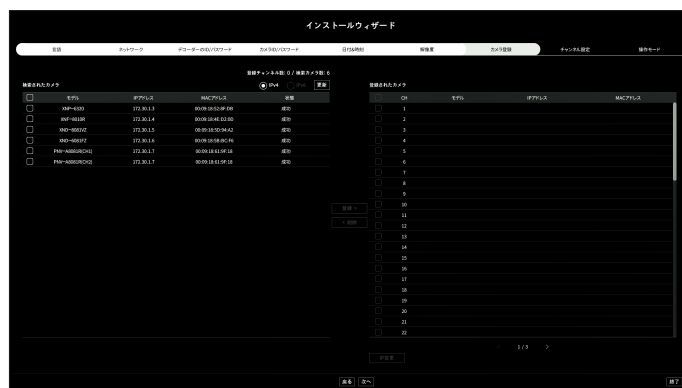
- パスワードが工場出荷時の状態の時は、一括変更して管理できます。
- パスワードが設定されたカメラIDとパスワード登録は最大3セットまで可能です。
- 「設定 > カメラ > カメラのパスワード」メニューで登録されているすべてのカメラのパスワードを一括で変更できます。
- ONVIF及びRTSPで登録済みのカメラのパスワードは変更することができません。

5. <日付&時刻>画面で日付、時間、サマータイムを設定した後、<次へ>をクリックしてください。

- 製品のリリースエリアによって標準時間帯の設定が異なります。

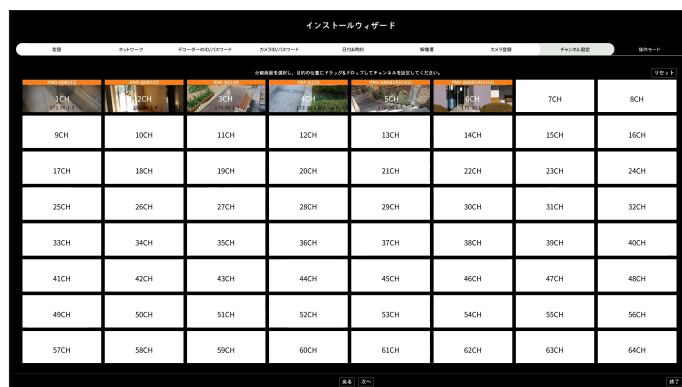
6. <解像度>画面で推奨解像度に設定するには、<適用>をクリックした後、<次へ>ボタンをクリックしてください。

7. <カメラ登録>画面の検索されたカメラリストから登録するカメラを選択した後、<登録>をクリックしてください。
- 登録するカメラをリストから選択した後、<IP変更>をクリックしてください。
- カメラ登録を完了した後、<次へ>をクリックしてください。



- カメラに設定されたIDとパスワードを入力した後、接続テストを完了してから正常に登録されます。

8. <チャンネル設定>画面では各チャンネルに登録済みのカメラの映像をサムネイル情報と一緒に分割モードでご確認できます。カメラ映像の位置を変更するには映像を選択した後、望む位置にドラッグ&ドロップしてください。チャンネル設定を完了した後、<次へ>をクリックしてください。



9. <操作モード>画面でデコーダーを制御できる操作モードを選択してください。

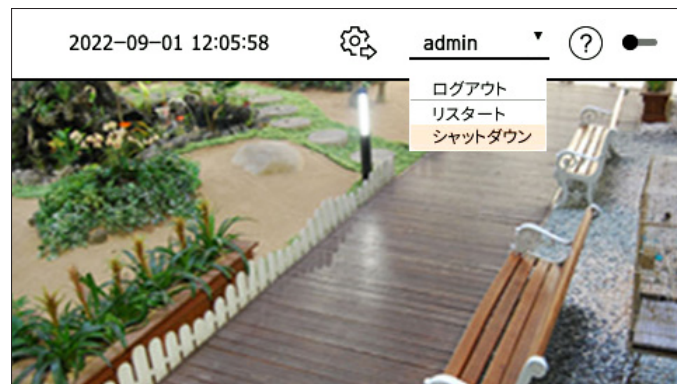


- スタンドアロン：デコーダーで、該当カメラのライブモニタリングと設定変更などの制御ができます。ウェブビューアでは、管理者アカウント情報と操作モードのみ変更できます。
 - WEB：デコーダーでは、該当カメラのライブモニタリングのみ可能で、設定変更や制御はウェブビューアでのみできます。
 - SSM：デコーダーではこのカメラのライブモニタリングのみ可能で、設定の変更や制御はSSMでのみ行えます。
10. インストールウィザードを完了するには<完了>をクリックしてください。

開始する

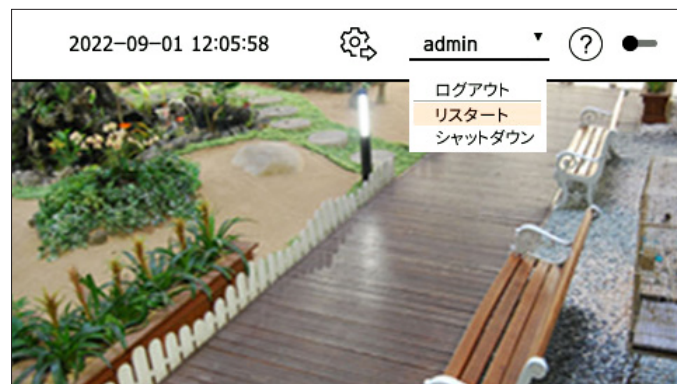
シャットダウン

1. 画面の右上にある<シャットダウン>を選択してください。
2. <シャットダウン>確認ウィンドウが表示されます。
3. <OK>をクリックしてください。
システムが終了されます。



システム再起動

1. 画面の右上にある<リスタート>を選択してください。
2. <リスタート>確認ウィンドウが表示されます。
3. <OK>をクリックしてください。
システムがリスタートされます。



- ログイン済みのユーザーに「リスタート/シャットダウン」権限が与えられた場合のみ、シャットダウン/リスタートを実行できます。
- 権限設定管理に対する詳細は目次の「[設定](#) > [システム設定](#) > [ユーザー](#)」ページをご参照ください。

ライブ

デコーダーに接続されたカメラの映像を確認できます。また、カメラの調整、ネットワーク転送状態を確認できます。

 ■ <スタンドアロン>操作モードの場合、次のライブ画面構築を確認できます。

ライブ画面構築

ライブの画面は、以下のように構成されています。



	部品名	機能説明
1	メニュー	各メニューをクリックするとメニュー画面に移動します。
2	カメラリスト	デコーダーに登録されたカメラリストが表示されます。 また、カメラを手動か自動に登録できます。 ✚: カメラを手動に登録します。 📷+: デコーダーに接続されたカメラを自動に検索して登録します。
3	レイアウトリスト	ベーシックなレイアウトと作成したレイアウトリストが表示されます。 また、レイアウトリストのシーケンスを設定して再生することができます。
4	PTZ制御	デコーダーに接続されたPTZカメラを制御します。

	部品名	機能説明
5		映像ウィンドウにOSD画面の情報を表示します。
		チャンネルの情報を表示します。
		全体カメラの状態を表示します。
		オートシーケンスを開始します。
6		映像ウィンドウにある分割モードを設定します。
		映像ウィンドウにある全ての画面を削除します。
		映像を原寸比率か全画面で表示します。
		現在の分割モード状態を全画面に変更します。 全画面モードから出るには、画面の下にマウスオーバーすると表示される<ㄱㄴ>をクリックしてください。
7	映像ウィンドウ	デコーダーに接続されたカメラの映像を表示します。 - 分割画面で映像をダブルクリックすると、単一画面に変更できます。 - 単一画面で映像をダブルクリックすると分割画面に変更されます。
8		管理者権限がある場合、デコーダーを制御できる操作モードを選択できます。 - スタンドアロン: デコーダーで、該当カメラのライブモニタリングと設定変更などの制御ができます。ウェブビューアでは、管理者アカウント情報と操作モードのみ変更できます。 - WEB: デコーダーでは、該当カメラのライブモニタリングのみ可能で、設定変更や制御はウェブビューアでのみできます。 - SSM: デコーダーではこのカメラのライブモニタリングのみ可能で、設定の変更や制御はSSMでのみ行えます。
	admin ▼	接続された使用者のIDを表示します。 クリックすると<ログアウト/リスタート/シャットダウン>メニューが表示されます。
		仕様説明書がダウンロードできるQRコードを表示します。
		画面のカラーテーマを変更します。
9	システム状態表示	システムまたはネットワークの状態を表示します。
10	2022-08-30 21:26:16	現在の日付と時間を表示します。

 ■ カメラのフレームレートを60 fpsに設定する場合、モニター解像度の出力によってライブ画面でフレームレート低下が発生することがあります。

システム状態確認

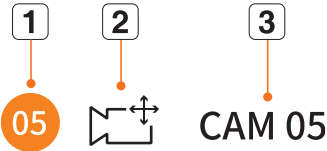
画面上に表示されるアイコンはシステムの状態を表示します。



名称	機能説明
	ネットワークオーバーロードが発生したら表示されます。 受信性能を超過してCPUに過負荷を与える場合に表示されます。カメラを削除したり、カメラの設定を修正してデータ量を下げると消えます。
	サーバーにアップデートするファームウェアがある場合に表示されます。
	システム過負荷が発生したら表示されます。
	カメラのファームウェアアップデートが完了すると、表示されてから消えます。
	レイアウトシーケンス再生を実行する時に表示されます。また、オートシーケンス再生を実行する時にも表示されます。
	分割モードのオートシーケンスを実行する時に表示されます。
	内蔵メモリにエラーが発生する場合に表示されます。

カメラリスト確認

デコーダーに登録済みのカメラのタイプ、状態、名前を表示します。

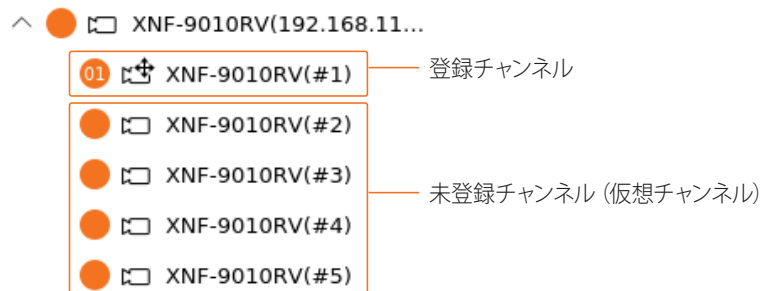


名称		機能説明
1	チャンネル情報	チャンネル情報を表示します。(チャンネル番号、映像ウィンドウの割り当て状況のカラー表示)
2	カメラタイプ	通常のカメラを表示します。
		PTZカメラを表示します。
	カメラ状態	カメラエラー状態を表示します。
3	カメラ名	カメラに設定した名前を表示します。

- カメラに接続エラーが発生すると、リストで無効になります。
- カメラ状態表示情報はネットワーク接続状態および設定によって変更されます。

マルチチャンネルのカメラ確認

Wisenetプロトコルで登録されたマルチチャンネルカメラの場合はマルチチャンネルカメラのモデル名の下にチャンネルの情報を表示します。



<スタンドアロン> 操作モードでマルチチャンネルカメラの場合、1つのメインチャンネルのみ登録してください。下位チャンネルはデコーダーに登録しなくてもリアルタイムモニタリングが可能です。

<WEB>操作モードでは、モニタリングしたいチャンネルが登録されないとリアルタイムモニタリングができません。



ライブ画面メニュー

分割モードでチャンネルを選択した後、画面にマウスオーバーするとライブ画面メニューが表示されます。

ライブ画面メニューはデコーダー動作状態または登録済みのカメラタイプによって異なります。

- 各機能はカメラのタイプやユーザーの権限によって使用に制限がかかることがあります。
- 各機能に関する詳細は、目次の「[ライブ > カメラ映像制御](#)」ページをご参照ください。

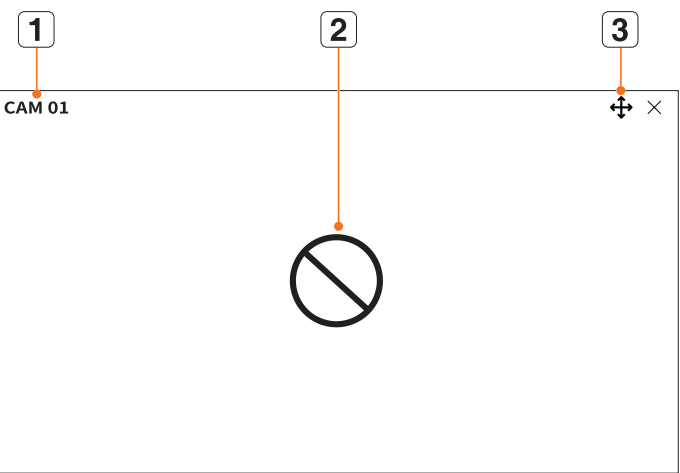


メニュー名		機能
	キャプチャー	選択したチャンネルの画面をキャプチャーできます。
	温度検知	熱力メラ機能に対応する映像の場合、任意の場所をクリックして温度情報を確認できます。
	PTZ制御	選択されたチャンネルに接続されたネットワークカメラがPTZ機能に対応する場合、PTZ 制御モードに移動します。
	拡大	映像を拡大したり縮小できます。
	音声	オーディオに接続されている場合、音声をオン・オフします。
	チャンネルアスペクト比	映像の実際比率に表示します。

ライブ画面アイコン

ライブ画面のアイコンは現在の設定状態や機能を表示します。

- 
- 画面に表示されるアイコンはカメラのタイプやユーザーの権限によって異なります。



メニュー名		機能
1	カメラ名	カメラの名前を表示します。 • マルチチャンネルカメラの場合はチャンネル番号が表示されます。チャンネル番号はカメラによって表示されない場合があります。
2	映像の入力状態表示	 カメラがオンの状態で入力がない場合に表示されます。
		 カメラがオンの状態でライブ映像の解像度が対応範囲を超過する場合に表示されます。
		カメラが登録されていない場合、表示されます。 チャンネル設定で<Covert2>を設定すると、ライブ画面に何も表示されません。  ■ <Covert1>に設定すると、ライブ画面に映像は表示されずOSDだけ表示されます。
3	状態情報表示	 PTZモードを使用できるチャンネルに表示されます。
		 音声のオン・オフ状態を表示します。チャンネル設定で音声を<オフ>に選択すると、表示されません。
		 デコード性能制限で全フレームをデコードできず、キーフレーム(Iフレーム)だけデコードする場合に表示されます。
		 Wisenetカメラの証明書が有効な場合に表示されます。

- 
- ネットワークカメラを自動登録すると、「Live4NVR」のプロファイルが自動追加され、使用環境によって設定値を変更できません。

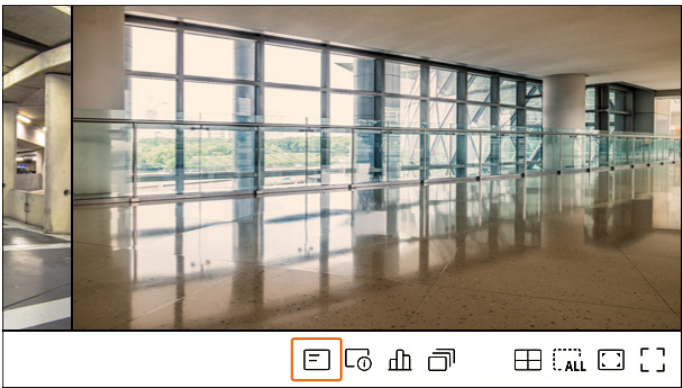
■ カメラ仕様によってプロファイルが追加できなかったり、PLUGINFREEのプロファイルがある場合、Live4NVRのプロファイルは追加されません。

■ システム過負荷で性能が落ちたら、ネットワークカメラはキーフレーム(Iフレーム)のみ再生することがあります。

■ プロファイル設定に関する詳細は、目次の「設定 > カメラ設定 > プロファイル設定」ページをご参照ください。

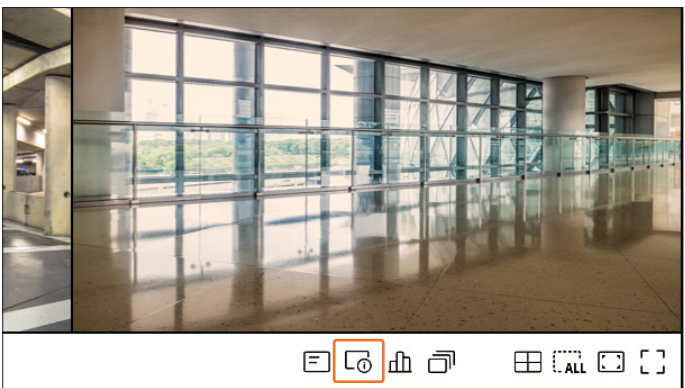
OSD情報表示

OSD情報を表示または、非表示するには画面の下にある<>をクリックしてください。



チャンネル情報表示

チャンネル情報を確認するには、画面の下にある<  >をクリックしてください。



モニタリング中のライブ映像上に現在受信中の映像の情報が出力されます。

CAM 01

800x448 (H.264)

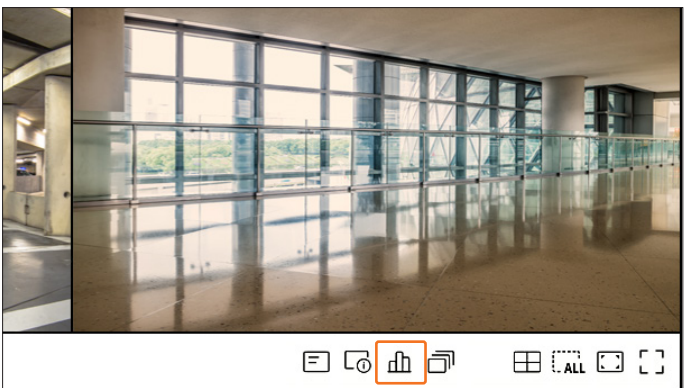
S/I/D 25/24/24

XNV-6081Z(S)

- 800x448：映像の解像度を表示します。
- H.264：映像のコーデックを表示します。
- S/I/D 25/24/24：映像のフレームレート(FPS)を表示します。(S：設定、I：映像入力、D：映像表示)
- XNV-6081Z：カメラのモデル名を表示します。
- S：カメラ登録時に使用されたプロトコルを表示します。
 - S、VはWisenetプロトコル、OはONVIFを意味します。
 - RTSPプロトコルに接続された場合には、製品名なしにRTSPだけ表示されます。

カメラ状態確認

デコーダーに接続された全カメラの接続状態を確認するには、画面の下にある<  >をクリックしてください。



ライブステータスの確認

各チャンネルに接続されたネットワークカメラの転送情報を確認できます。

状態						
ライブ						
CH	モデル	状態	IPアドレス	コーデック	解像度	フレームレート
1	XNP-6320	接続	172.30.1.3	H.264	1920X1080	30Fps
2	XNF-8010R	接続	172.30.1.4	H.264	640X640	15Fps
3	XND-8081VZ	接続	172.30.1.5	H.264	640X360	15Fps
4	XND-6081FZ	接続	172.30.1.6	H.264	640X360	15Fps
5	PNV-A8081R	接続	172.30.1.7	H.264	640X480	15Fps
6	PNV-A8081R	接続	172.30.1.7	H.264	640X360	15Fps
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-
14	-	-	-	-	-	-

- モデル：チャンネル別に接続されたカメラのモデル名を表示します。
- 状態：チャンネル別に設定されたカメラの接続状態を表示します。
- IPアドレス：チャンネル別に設定されたカメラのIP情報を表示します。
- コーデック：チャンネル別に設定されたカメラのライブプロファイルのコーデック情報を表示します。
- 解像度：チャンネル別に設定されたカメラのライブプロファイルの解像度情報を表示します。
- フレームレート：チャンネル別に設定されたカメラのライブプロファイル転送率を表示します。

チャンネル設定

分割モード内で希望する位置にチャンネルが表示されるように変更することができます。

チャンネル位置を変更するには、マウスで移動するチャンネルを選択した後、希望する位置にドラッグ&ドロップしてください。

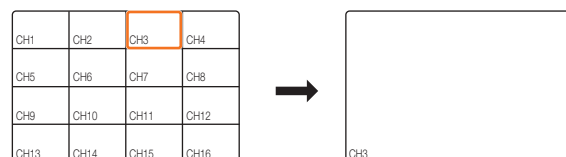
例) 1 番チャンネルを 7 番チャンネルに変更する場合



シングル画面のシーケンス

分割モードで希望するチャンネルにマウスカーソルを移動した後、ダブルクリックすると選択した画面がシングル画面に変更されます。

例) 3 番チャンネルをダブルクリックする場合



分割モード変更

画面の分割モードを変更できます。

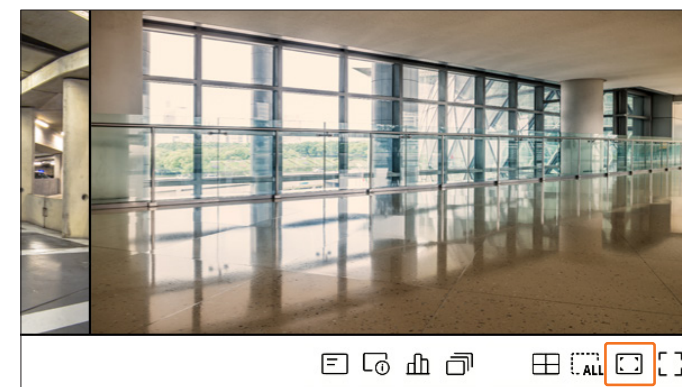
画面下部の<田>をクリックしてモードを選択してください。



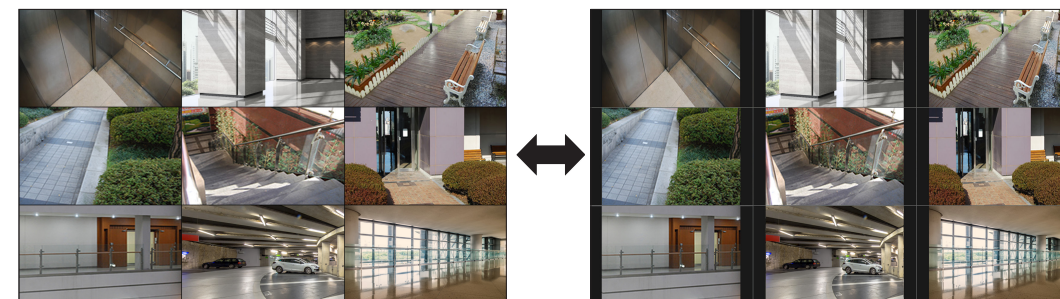
全アスペクト比の変更

ライブ分割モード状態で全チャンネルの映像アスペクト比を変更できます。

画面の下にある<⌂>をクリックしてください。映像の実際アスペクト比に変更されます。



前のアスペクト比に戻るには<⌂>をクリックしてください。



- チャンネル別にアスペクト比を変更することができます。詳細は目次の「ライブ > カメラ映像制御 > チャンネルアスペクト比の変更」ページをご参照ください。

全画面モード

ライブ画面の上/下/左/右領域が消えた全画面モードに変更できます。
画面の下にある「

全画面モードに変更されます。

- 全画面を終了するには、全画面モードの下にマウスオーバーしたら表示される「

レイアウト設定

使用目的と便宜に合わせてチャンネルをレイアウトにまとめて必要時、すぐに確認することができます。

例) レイアウト「ロビー」 - ロビーカメラ1、ロビーカメラ2、正門カメラ2 レイアウト「VIP」 - 役員会議室1、役員会議室2、役員休憩室1、7階の廊下カメラ

- S/Wアップグレード以降は設定されていたレイアウトが変更される可能性があります。レイアウトとシーケンスを再設定してください。
- 操作モードを変更すると、設定されたレイアウトはすべて初期化されます。レイアウトとシーケンスを再設定してください。

レイアウトリスト確認

<レイアウト> 項目の「

- ・ 

韓国語_23

レイアウト追加および名前設定

1. <  >をクリックしてレイアウトを追加してください。
2. <  >をクリックして追加したレイアウト名を設定してください。
3. カメラリストからレイアウト画面に表示するチャンネルをダブルクリックするかドラッグアンドドロップしてください。選択したチャンネルが映像ウィンドウに表示されます。
 - カメラリストから連続する複数のチャンネルを一度に映像ウィンドウに割り当てられます。カメラリストから必要なチャンネルをドラッグして映像ウィンドウにドロップしてください。ドロップする位置とチャンネル数によって空きの領域に映像が割り当てられたり、現在のレイアウトが拡張されて割り当てられます。
4. <  >をクリックして設定したレイアウトを保存してください。

 ■ レイアウトは各ユーザー別に別途保存されます。

レイアウトを削除する

削除するレイアウトを選択した後、<  >をクリックしてください。

 ■ 基本レイアウトは削除できません。

レイアウトチャンネルおよび名前変更

1. レイアウトを選択した後、<  >をクリックしてください。
2. チャンネルを追加または削除したり、レイアウト名を変更してください。
3. <  >をクリックして変更した設定を保存してください。

動的レイアウト

レイアウトに割り当てられた映像サイズや位置を自由に設定できます。

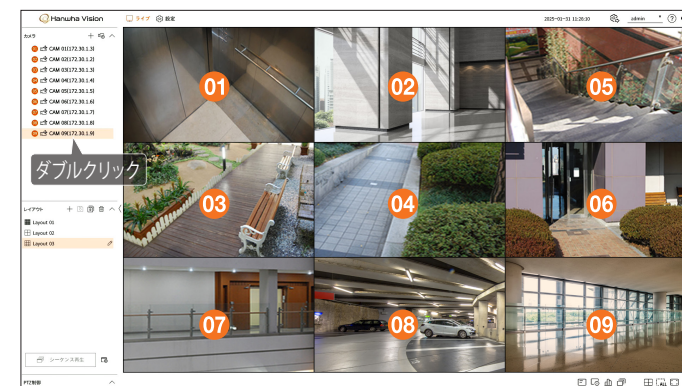
 ■ 動的レイアウト機能はプライマリモニターでのみ設定できます。

1チャンネルずつ割り当てる

カメラリストからレイアウト画面に表示するチャンネルをダブルクリックするかドラッグアンドドロップしてください。

空きの領域に割り当てられたり、ドロップする位置によって現在のレイアウトが拡張された割り当てられます。

例) 新規レイアウトに9つのチャンネルを割り当てる場合、下記の順番通りチャンネルが配置されます。

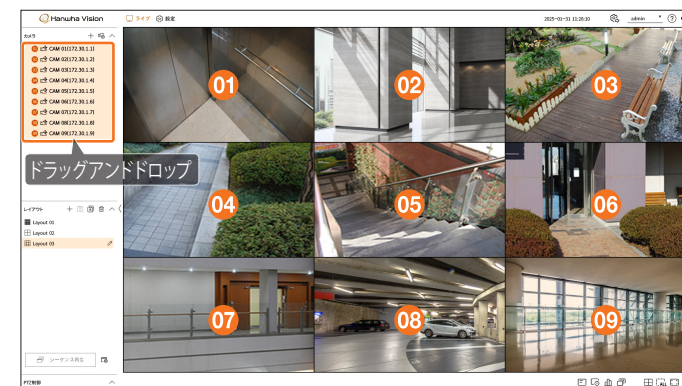


複数のチャンネルを一度に割り当てる

カメラリストから連続する複数のチャンネルをドラッグして映像ウィンドウにドロップしてください。

ドロップする位置とチャンネル数によって空きの領域に割り当てられたり、現在のレイアウトが拡張されて映像が割り当てられます。

例) 新規レイアウトに連続する9つのチャンネルを割り当てる場合、下記の順番通りにチャンネルが配置されます。

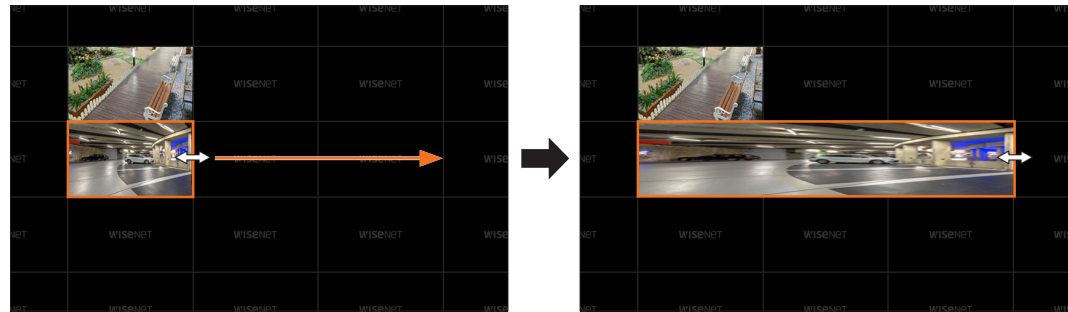


映像拡大や縮小

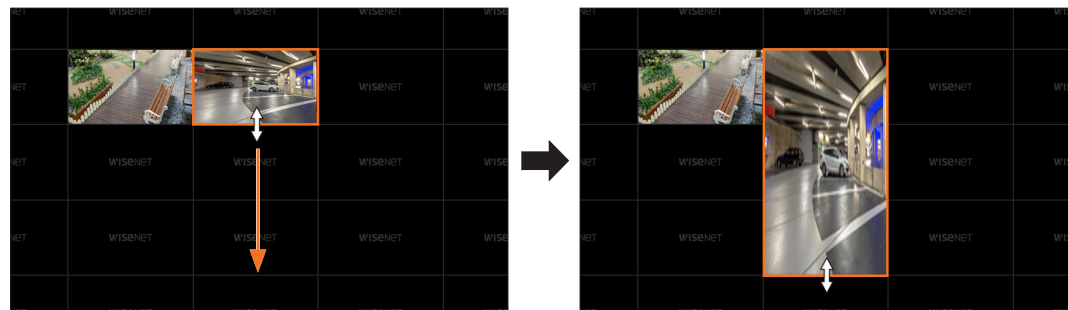
映像領域の角や端を必要な方向にドラッグして映像を拡大したり縮小できます。拡大された映像領域の角や端をダブルクリックすると、段階的に映像が縮小されます。

映像の周りに拡張できる領域がある場合、映像を拡大できます。

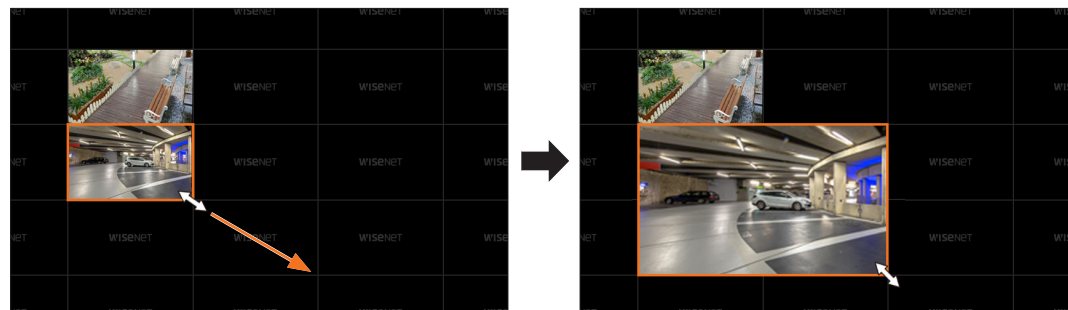
横拡大



縦拡大



斜め拡大



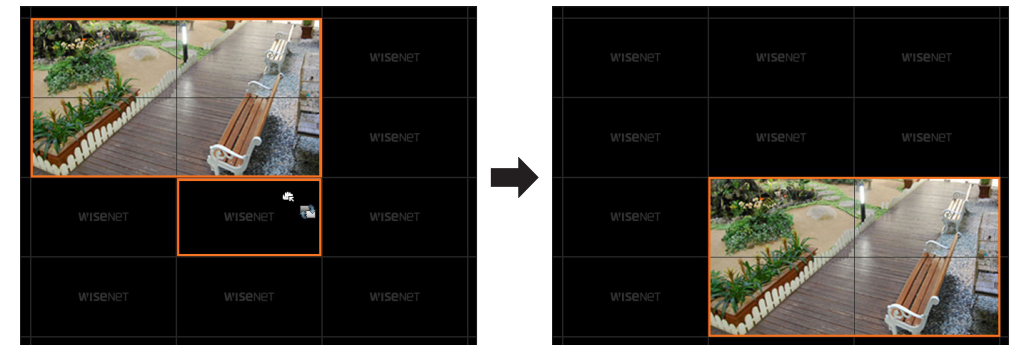
- 映像の拡大及び縮小は、レイアウトに2つ以上のチャンネルが割り当てられた場合のみ可能です。
- 映像の拡大及び縮小は、パターンレイアウトでは行えません。
- 映像の拡大及び縮小をしたあとウェブビューアに再接続する場合、該当のレイアウトは再接続前の最後の状態で保存され、それ以降は修正できません。

映像移動

映像を移動したい場合、映像をクリックしてから移動したい位置へドラッグアンドドロップしてください。レイアウト領域の外側にドラッグすると、レイアウト領域が拡張されます。



拡大された映像は周りに空いている領域がある場合にのみ映像サイズの分、移動できます。



レイアウトシーケンス再生

レイアウトリストを設定した時間間隔にオートシーケンスして確認できます。

シーケンス設定

レイアウトリストの下にある<  >をクリックしてシーケンスを設定してください。



- ・シーケンス切替時間：レイアウトリストの切替時間を設定します。
- ・シーケンスリスト：レイアウトシーケンス再生順番を設定します。同じレイアウトを繰り返して追加でき ます。

シーケンス再生

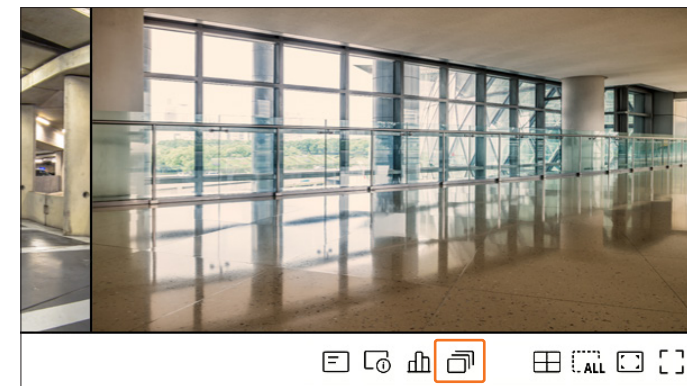
レイアウトリストの下にある<  シーケンス再生 >をクリックすると、シーケンス設定によってレイアウトがオートシーケンスされます。



-  シーケンスが設定された場合のみ、<シーケンス再生>が有効になります。

オートシーケンス再生

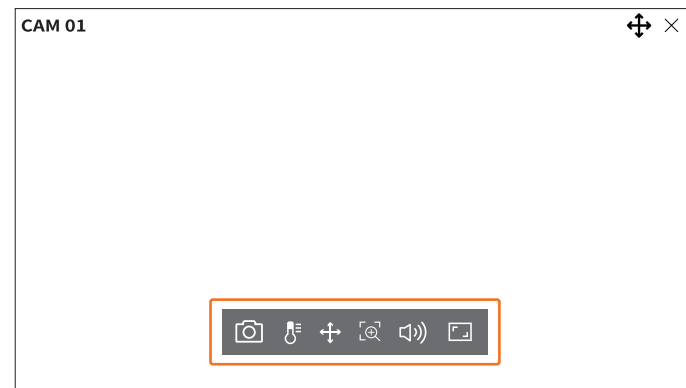
レイアウト画面右下の<  >をクリックするとオートシーケンスが動作します。



- ・現在選択されたレイアウトのチャンネル数より登録されたチャンネル数が多い場合、画面右下の<オートシーケンス再生>開始ボタンが有効になります。例えば、4分割レイアウトで登録されたチャンネル数が3つの場合は、このボタンが無効になります。
- ・<オートシーケンス再生>開始ボタンをクリックすると、現在表示されているレイアウト内で、登録されたカメラが順番に自動で切り替わります。例えば、計10個のチャンネルが登録されている場合、レイアウトが4分割で構成されていると、1、2、3、4 → 5、6、7、8 → 9、10 → 1、2、3、4の順に表示されます。
- ・オートシーケンスの切り替え時間は、シーケンス再生設定のレイアウトシーケンス切り替え時間に従います。
- ・オートシーケンス再生機能が動作中の場合は、画面右上に緑色の<シーケンス再生>アイコンが表示されます。
- ・画面左下の<シーケンス再生>ボタンによってレイアウトシーケンスが動作中の場合は、画面右下の<オートシーケンス再生>開始ボタンが無効になります。
- ・画面右下の<オートシーケンス再生>開始ボタンによってオートシーケンスが動作中の場合は、画面左下の<シーケンス再生>ボタンが無効になります。
- ・オートシーケンスの動作は、自動ログアウト時にもログアウトに関係なくシーケンスが継続されます。

カメラ映像制御

映像ウィンドウの機能アイコンを利用してキャプチャー、映像の拡大/縮小、PTZカメラおよび熱カメラの機能を簡単に使用できます。映像ウィンドウにマウスオーバーすると、ライブ画面メニューが表示されます。



キャプチャー

ライブ画面で選択した特定チャンネルの現在の映像をキャプチャーできます。

1. 映像をキャプチャーするチャンネルを選択した後、<[カメラ]>をクリックしてください。
2. キャプチャー画面に表示する出力情報を選択してください。



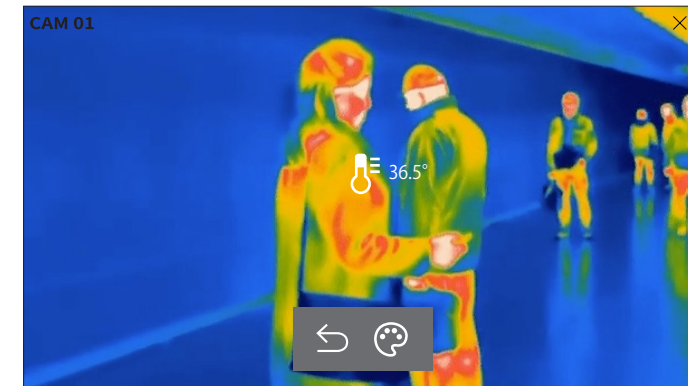
3. キャプチャーファイルを保存するデバイスとファイル名を設定してください。
 - <フォーマット>をクリックすると、フォーマット確認ウィンドウが表示されます。<はい>をクリックすると選択された記憶装置をフォーマットします。
4. 設定を完了して<OK>をクリックすると、設定したデバイスに該当するキャプチャー画面が保存されます。

 ■ 2メガピクセル以上のカメラはFull HDサイズにキャプチャーされます。

温度検知モード

熱カメラ機能に対応する映像の場合、任意の場所をクリックして温度情報を確認できます。

チャンネルを選択した後、<[温度]>をクリックしてください。映像の上でマウスオーバーすると、マウスポインターが温度計の形に変更され、映像の特定位置をクリックすると、マウスポインターの横に該当位置の温度が表示されます。

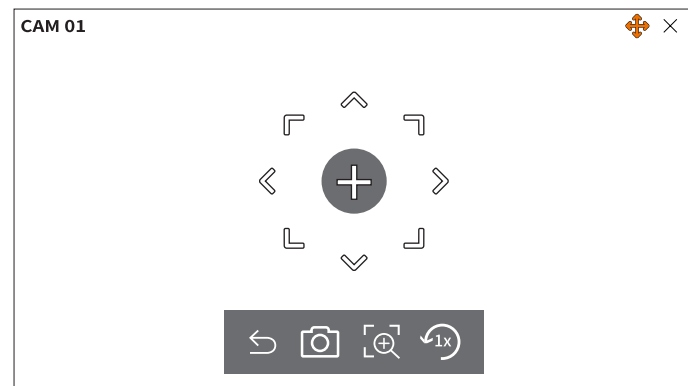


- <左矢印>：温度検知モードを終了します。
- <スピーチバブル>：温度カラー選択によって映像のカラーが変更されます。

PTZモード

選択されたチャンネルのPTZ制御を実行できます。
チャンネルを選択した後、<  >をクリックしてください。
PTZ制御モードに入ります。

 ■ カメラによってPTZ制御機能および速度に差があります。



-  : PTZモードを終了します。
-  : 現在の映像をキャプチャーします。
-  : デジタルズームアイコンをクリックした後、<  /  > ボタンを用いて映像を拡大したり、縮小したりできます。
-  : 1倍率のズーム画面に戻ります。

カメラ方向を調整する

<  > にマウスオーバーすると8方向キーが表示され、マウスが方向キーの領域から外れると方向キーが消えます。8方向キーを1回ずつクリックしてカメラの方向を細かく調整できます。方向キーをクリックし続けて希望する方向に移動し、止めたい時にはマウスを離してください。

カメラの方向を素早く調整するには、<  > をクリックしてからドラッグしてください。希望する方向に画面が素早く移動します。ドラッグする距離によって画面の移動速度を調整できます。

画面の中央に移動する

画面の特定位置をクリックすると、該当位置の映像が画面の中央に移動します。

選択領域を拡大する

画面の特定領域をドラッグすると、選択された領域が画面の中央に移動しながら拡大されます。

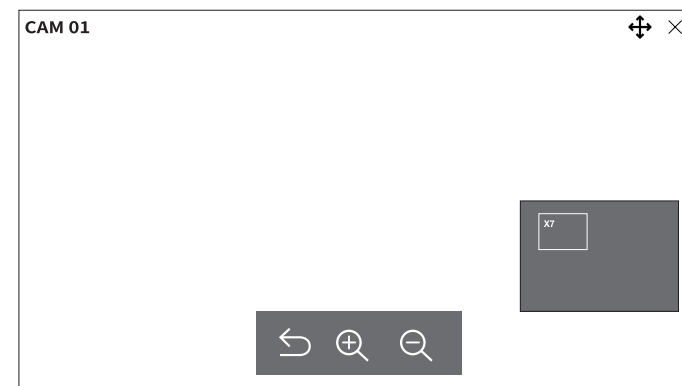
映像拡大や縮小

マウスホイールを用いて映像を拡大したり、縮小したりできます。元のサイズに縮小するには<  > をクリック してください。

拡大

デジタルズームで映像を拡大したり、縮小したりできます。
チャンネルを選択した後、<  > をクリックしてください。
デジタルズームモードに入ります。

 ■ PTZモードでは<  > をクリックすると、デジタルズームが実行されます。



-  : デジタルズームモードを終了します。
-  /  : 映像を拡大または縮小します。
- ミニマップ: 映像を10%拡大すると、ミニマップが表示されます。ミニマップから拡大された映像で希望する位置を素早く確認できます。

音声

ライブ画面で各チャンネルと接続された音声をオン・オフすることができます。

チャンネルを選択した後、<  > をクリックしてください。

一つのチャンネルでのみ、音声出力をオンにできます。他のチャンネルの音声出力は自動にオフとなります。

-  ■ 出力設定になっているのに音声が出力されない場合は、接続されたネットワークカメラのオーディオ対応確認やオーディオ設定を確認してください。ノイズによって実際音声が出力されない場合にも、音声アイコンが表示されることがあります。
- 「設定 > カメラ > チャンネル設定」メニューで< 音声 > が < オン > に設定されたチャンネルのみライブモードで音声アイコン()が表示され、音声をオン・オフにできます。

チャンネルアスペクト比の変更

各チャンネルの映像アスペクト比を変更できます。
チャンネルを選択した後、<  >をクリックしてください。
該当映像の実際アスペクト比に変更されます。



PTZ制御

このデコーダーは一般監視カメラの他にもPTZ機能カメラをユーザーの便宜に合わせて調整、設定できます。
PTZ機能カメラが接続されているチャンネルでチャンネルが選択された場合のみ、実行できます。

PTZを開始する

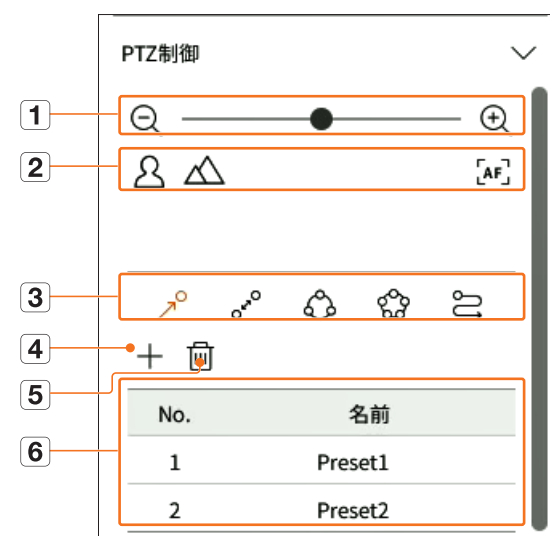
PTZ機能カメラはチャンネルが選択された場合のみ実行できます。チャンネルを選択した後、ライブ画面メニューで<  >をクリックしてください。

-  ■ PTZカメラが接続されていて<  >アイコンが画面に表示される場合のみ、実行できます。
- 接続されたネットワークカメラがPTZ機能カメラではなくても、PTZドライバーを接続して設定できる場合にはPTZ機能を実行できます。
- Hanwha VisionのPTZ機能ネットワークカメラとONVIF登録カメラのみ対応します。

PTZ制御モード

1台のカメラでPAN、TILT、ZOOMの機能をすべて実行して複数の場所を監視でき、ユーザーが希望するモードでプリセットを設定して自由に活用できます。

ライブ画面の左下にある< **PTZ制御** >をクリックすると、以下のようにPTZカメラ制御メニューが表示されます。



名称			機能
1		縮小/拡大	PTZカメラのズーム機能を使用します。
2		近く/遠く	ユーザーが手動でフォーカスを調整します。
	[AF]	オートフォーカス	自動的にフォーカスを調整します。
3		プリセット	カメラが移動するプリセット位置を設定してプリセットを選択すると、設定された位置に移動します。
		スイング	2つのプリセット区間を往復しながら移動経路を監視します。
		グループ	ユーザーが事前に指定した複数のプリセットをグループ化して連続的に呼び出します。
		ツアー	ユーザーが作成したグループを順番にすべて監視します。
		トレース	ユーザーの任意操作によって保存されたモーションを再現する機能です。
4	+		設定したプリセットを保存し、リストに表示します。
5			選択したプリセットリストを削除します。
6	プリセットリスト		保存されたプリセットリストを表示します。

-
- PTZが正常動作しなくてもPTZ Working(Active) Markは有効になることがあるので、PTZが正常動作するように設定してから動作してください。
 - スイング、グループ、ツアー、トレース機能は、一部のカメラでは名称と機能が異なることがあります。

-
- ネットワークカメラ自体で対応する機能でも、PTZ制御ボタンが有効になってる場合のみ利用できます。

デジタルPTZ(D-PTZ)機能活用

- D-PTZプロファイルに対応するカメラを登録してください。
 - D-PTZプロファイルに対応するカメラに限ってD-PTZ機能を活用できます。
- 通常のPTZに対応するカメラだけではなく、D-PTZに対応するカメラも一部<PTZ制御>機能メニューを使用してライブ映像を制御できます。
 - 詳細な機能はカメラ取扱説明書をご参照ください。

プリセット設定

プリセットとは、PTZカメラの特定位置を保存するもので、1つのカメラに最大300個まで保存できます。

-
- 最大プリセット数は、カメラがサポートするプリセット数によって異なります。

プリセットを追加するには

- チャンネルを選択した後、<➡>をクリックしてください。
 - PTZ制御画面が表示されます。
- 方向キーを用いてカメラが向く地点へ方向を調整してください。
- <📍>をクリックしてください。
- <+>をクリックすると、「プリセット設定」ウィンドウが表示されます。

プリセット設定

No. 3

名前

保存

キャンセル

- < No. 3 >をクリックして設定するプリセット番号を選択してください。
- プリセット名を入力してください。
- <保存>をクリックしてください。プリセット設定が保存されます。

-
- プリセットリストが保存されたチャンネルのカメラを他のカメラに交換する場合、プリセットを新しく設定する必要があります。

登録されたプリセットを削除するには

1. <🔍>をクリックしてください。
2. <📄>をクリックしてください。「プリセット削除」ウィンドウが表示されます。



3. < No. 1: Preset1 >をクリックして削除するプリセットを選択してください。
4. <削除>をクリックしてください。選択したプリセットが削除されます。

プリセット実行

1. <🔍>をクリックしてください。
2. リストで実行するプリセットをクリックしてください。設定された位置にカメラレンズが移動します。

スイング(オートパン)、グループ(スキャン)、ツアー、トラッキング(パターン)実行

各機能の実行方法は、プリセット実行方法と同じです。詳細な使用方法是該当カメラの取扱説明書をご参照ください。



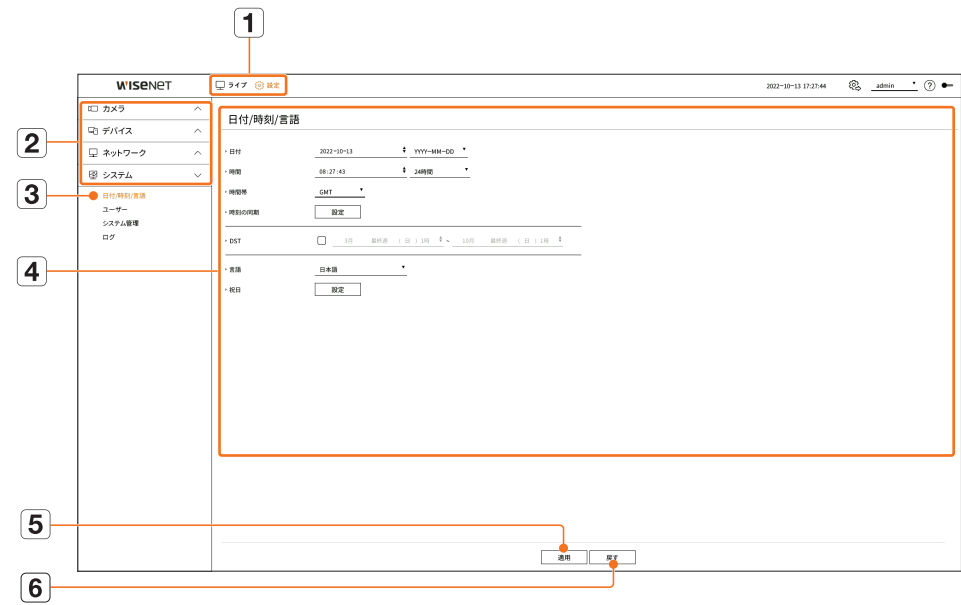
- カメラの性能によって一部の機能のみ使用できる場合もあります。

設定

カメラ、デバイス、ネットワーク、システムを設定できます。

■ <スタンドアロン>操作モードの場合、次の設定画面構築を確認できます。

設定画面構築



名称		機能
1	メニュー	各メニューをクリックすると該当するメニュー画面に切り替えます。
2	上位メニューリスト	設定したり、既存設定を変更したい項目の上位メニューを選択します。
3	下位メニューリスト	選択した上位メニューに対する下位メニュー中で設定する項目を選択します。
4	詳細メニュー	変更する項目を選択して設定を入力します。
5	適用	修正した設定を適用します。
6	戻る	変更する以前の設定に戻します。

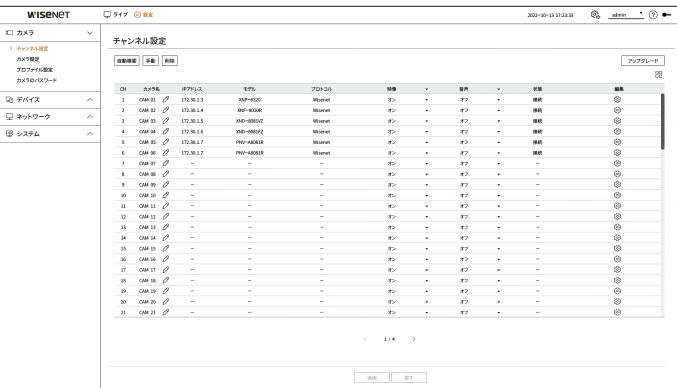
カメラ設定

チャンネル設定、カメラ設定、プロファイル、カメラのパスワードに関する内容を設定できます。

チャンネル設定

チャンネルごとにネットワークカメラを登録・接続できます。

設定>カメラ>チャンネル設定



- 該当チャンネルのカメラをリストまたはサムネイルで表示します。
 - ONVIFで接続されたカメラはプレビューができません。
- カメラ名: カメラ名を入力します。スペース含みで15文字まで入力できます。
- IPアドレス: ネットワークカメラのIPアドレスが表示されます。
- モデル: カメラのモデル名が表示されます。
- プロトコル: 登録したネットワークカメラのプロトコル情報が表示されます。
- 映像
 - オン/オフ: 選択したチャンネルのカメラ映像をON/OFFできます。カメラ映像をオフにする場合、空の画面が表示されます。
 - Covert1: 選択したチャンネルの映像以外の情報が表示されます。プライバシー保護のため、映像は表示されません。
 - Covert2: 選択したチャンネルのすべての情報が表示されず、空の画面のみ表示されます。
- 映像が <Covert1>または<Covert2>に設定されたチャンネルは音声が出力されません。
- 音声
 - <オン>に設定した場合、ライブ画面上で音声をON/OFFできます。
 - <オフ>に設定した場合、ライブ画面上で音声はOFFになります。

■ 映像が <Covert1>または<Covert2>に設定されたチャンネルは、オーディオが<オン>に設定されていてもライブでは音声が出力されません。

- 状態: カメラの接続ステータスが表示されます。
- 編集: カメラの接続情報を変更できます。
- アップグレード: カメラのバージョン、アップグレードバージョン、状態を確認してアップグレードできます。

■ システムを初期化した後、カメラ登録ができない場合は、ネットワーク設定をご確認ください。システムを初期化してネットワーク設定が初期化されると、カメラと製品のネットワーク帯域が異なるため、カメラを登録することができません。

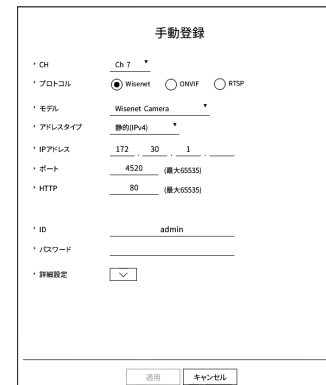
ネットワークカメラの自動登録



1. <チャンネル設定>項目欄の<自動検索>をクリックしてください。
2. <自動検索>ウィンドウが表示されます。
 - ライブ画面のカメラリストで<🔍>をクリックすると、カメラを自動検索して登録できます。
3. <検索されたカメラ>リストから登録するカメラを選択した後、<登録>をクリックしてください。選択したカメラを<登録されたカメラ>リストから確認できます。
 - 既に登録したカメラは、リストで青色に表示されます。
 - 再度検索をするかカメラIPが未だDHCPサーバーによってIP割り当てが行われず同一のIPが継続して維持される場合 (例: 192.168.1.100)、<更新>ボタンをクリックして割り当てられたかを確認します。
 - <状態>ではカメラの認証状態を表示します。<認証失敗> 状態の時は、<🔑>をクリックしてカメラIDとパスワードを入力してください。
 - リスト上のヘッダー部分をクリックすると検索リストを再度並び替えます。
4. カメラのIPアドレスを変更するには<登録されたカメラ>リストでカメラを選択した後、<IP変更>をクリックしてください。
5. 画面の下にある<次へ>をクリックして登録されたカメラのチャンネルを設定します。
6. 画面の右下の<登録>をクリックすると、選択されたカメラが登録されます。

- カメラを登録する時、管理者アカウントではなくユーザーアカウントで登録すると、カメラの機能に制限がかかることがあります。
- カメラウェブビューアでカメラのID/パスワードを変更時、該当カメラがデコーダーにすでに登録されたカメラの場合は、デコーダーに登録されたカメラのID/パスワード情報も同じく変更してください。
- カメラが工場出荷時の状態の場合、「設定>カメラ>カメラのパスワード」で設定したIDとパスワードに変更されます。
- カメラのIDとパスワードがすでに設定された場合、「設定>カメラ>カメラのパスワード」で設定したIDとパスワードで一致する情報に登録されます。(最大3セット)
- WisenetカメラはWisenetプロトコルで登録され、他社のカメラはONVIFプロトコルで登録されます。
- PoEポートまたはカメラ設定ポートにDHCPサーバーが実行されるデバイスを接続させないでください。(例:ルーター)
- カメラが自体電源を使用する場合、ユーザーが直接カメラを手動登録したり自動登録する必要があります。

ネットワークカメラの手動登録



1. <チャンネル設定>項目欄の<手動>をクリックしてください。
2. <手動登録>ウィンドウが表示されます。
 - ライブ画面のカメラリストで<+>をクリックすると、カメラを手動で登録できます。
3. カメラを接続したいチャンネルとプロトコルを選択します。選択するプロトコルによって入力項目が異なります。
 - Wisenet: Wisenettカメラのプロトコルを使用できます。
 - ONVIF: ONVIFプロトコルをサポートしているカメラのことです。カメラリストに表示されていないカメラを接続する場合、<ONVIF>を選択します。
 - ONVIFでカメラを登録する場合、カメラとデコーダーのシステム時間差が2分以上の場合はカメラを登録できません。カメラとデコーダーの時間を同期した後、登録してください。
 - RTSP: リアルタイムストリーミング伝送は「Real Time Streaming Protocol (RTSP)」プロトコルのRFC 2326文書に準拠しています。
4. <Wisenet>プロトコルを選択した場合、表示される各項目を選択します。
 - モデル: カメラのモデルを選択します。
 - 不明: カメラのモデルを確認できない場合に選択します。
 - Wisenet Camera: Hanwha Visionのカメラ、エンコーダーを登録します。
 - Wisenet Multi-Channel: Hanwha Visionのマルチディレクショナル・カメラまたはマルチイメー ジャ・カメラを登録できます。マルチチャンネルカメラは一つの本体に複数のカメラモジュールで構成された多チャンネルカメラのことです。デコーダーにカメラを自動登録すると、複数のチャンネルを一度に登録できます。但し、カメラを手動登録する時は、チャンネル別に登録する必要があります。

- アドレスタイプ: カメラの接続アドレスタイプを選択します。
 - 接続された製品によって対応するアドレスタイプが異なります。
 - IPv4/IPv6: カメラのIPアドレスを直接入力する時に使用します。
 - Wisenet DDNS: カメラがWisenet DDNS(ddns.hanwha-security.com)サーバーに登録されている場合に使用でき、登録したドメインをDDNS IDに入力します。**例)**http://ddns.hanwha-security.com/snb5000の場合、Wisenet DDNSにsnb5000と入力
 - URL: URLアドレス入力に使用します。



- カメラで対応するDDNS仕様は、各カメラの製品取扱説明書で確認できます。

- IPアドレス: カメラのIPアドレスを入力します。
- ポート: カメラのデバイスポートを入力します。
 - カメラ製品によってデバイスポートに対応できないことがあります。
- HTTP: カメラのHTTPポートを入力します。
- ID: 登録するカメラのIDを入力します。
- パスワード: 登録するカメラIDのパスワードを入力してください。
- 詳細設定 : ストリーミングモードを設定できます。

5. プロトコルを<ONVIF>または<RTSP>で選択した時に表示される各項目を入力します。

- ONVIF: IPタイプを選択した後、IPアドレス、ONVIFポート、ID、パスワード、詳細情報を設定してください。
 - IPタイプ: カメラのIPタイプを選択してください。
 - IPアドレス: カメラのIPアドレスを入力してください。
 - ONVIFポート: アドレスタイプがIPv4またはIPv6の場合、ポート値を入力してください。
 - チャンネル: カメラを登録するチャンネルを入力してください。
 - ID: カメラのIDを入力してください。
 - パスワード: カメラのパスワードを入力してください。
 - 詳細設定 : TLS使用有無、認証モード、ストリーミング方式を設定できます。
- RTSP: URL、ID、パスワード、詳細情報を設定してください。
 - URL: RTSP接続アドレスを入力してください。詳細はカメラの製品取扱説明書をご参照ください。
 - ID: カメラのIDを入力してください。
 - パスワード: カメラのパスワードを入力してください。
 - 詳細設定 : ストリーミングモードを設定できます。



- ONVIF、RTSPプロトコル選択時、詳細設定でストリーミングモードを設定できます。
 - TCP: ネットワークカメラとの接続がRTP over TCPで動作します。
 - UDP: ネットワークカメラとの接続がRTP over UDPで動作します。
 - HTTP: ネットワークカメラとの接続がRTP over TCP(HTTP)で動作します。
 - HTTPS: ネットワークカメラとの接続がRTP over TCP(HTTPS)で動作します。

カメラ登録失敗の詳細を確認するには

カメラ登録に失敗した場合、失敗の理由が表示されます。

- **不明な理由により、接続に失敗しました:** 不明な接続状態が原因でカメラ登録が失敗した場合、このメッセージが表示されます。
- **カメラのアカウントがロックされているため接続に失敗しました:** カメラアカウントのログインで間違ったID/パスワードを5回入力してロックされた場合、このメッセージが表示されます。30秒後に再度ログインしても同じメッセージが表示される場合、外部から該当のカメラアカウントにアクセスを試みてないかを確認する必要があります。
- **接続に成功しました:** カメラ登録に成功した場合、このメッセージが表示されます。
- **モデル情報が間違っています。正しいモデル名を指定してください:** カメラの登録時にモデル情報が間違っている場合、このメッセージが表示されます。
- **認証に失敗しました:** カメラの登録時にIDまたはパスワードを間違った場合、このメッセージが表示されます。
- **同時接続ユーザー数を超えているため、接続に失敗しました:** カメラの登録時に同時ユーザー数が上限を超えた場合、このメッセージが表示されます。
- **HTTPポートが正しくないため、接続に失敗しました:** カメラのHTTPポート番号が違う場合、このメッセージが表示されます。
- **接続に失敗しました。不明な接続エラーです:** カメラの接続時に不明なエラーが原因で接続に失敗した場合、このメッセージが表示されます。
- **ユーザーモデル変更:** カメラの登録時にモデルを<Wisenet Camera>に設定した場合、カメラの初期設定に応じて名前がつけますが、登録に失敗した場合は、ユーザーは登録するカメラの名前を直接入力できます。

カメラ登録プロフィールを変更するには

プロフィール変更に関する詳細は、目次の「**設定 > カメラ設定 > プロファイル設定**」ページをご参照ください。



- デコーダーの場合、ライブプロフィールとリモートプロフィールをそれぞれ設定すると、1つのカメラから2つのストリームが出ることがあります。特に、ライブプロフィールは使用されている画面分割モードに応じてプロフィールが異なります。
- カメラの場合、1つのプロフィールを送信する時はプレームが保証されますが、複数のプロフィールで出の場合は伝送するフレームを保証できません。つまり、2つのプロフィールを30fpsで伝送する時、設定は30fpsになっていても20fpsで伝送される場合があります。

ネットワークカメラ削除

1. <チャンネル設定>項目欄の<削除>をクリックしてください。
2. 削除ウィンドウが表示されたら、削除するカメラのチャンネルを選択してください。
 - <全チャンネル>をクリックすると、全チャンネルのカメラが選択されます。
3. <OK>をクリックすると、選択されたチャンネルのカメラが削除されます。

ネットワークカメラのファームウェアアップグレード

カメラアップグレード

他のチャンネルに適用

チャンネル▼	モデル▼	現在のバージョン▼	アップグレードバージョン▼	状態▼	
☐	1	XNF-6320	1.40.02_20191031_R408	Q	—
☐	2	XNF-8010R	1.40.04_20200729_R462	Q	—
☐	3	XND-6081VZ	1.40.03_20201216_R306	Q	—
☐	4	XND-6081FZ	1.40.03_20201216_R306	Q	—
☐	5	PNV-A8081R	1.40.57_20191030_R166	Q	—
☐	6	PNV-A8081R	1.40.57_20191030_R166		—

アップグレード

OK

- チャンネル：チャンネル情報を表示します。
- モデル：カメラモデルの情報を表示します。
- 現在のバージョン：現在カメラファームウェアバージョンを表示します。
- アップグレードバージョン：アップグレードするファームウェアバージョンを表示します。
 - ＜Q＞をクリックして、USB内のファームウェアを手動で選択できます。
 - ＜＞はリモートサーバーでのアップグレード表示です。
- 状態：進行中のアップグレード状態(アップグレード中、成功、失敗)を表示します。

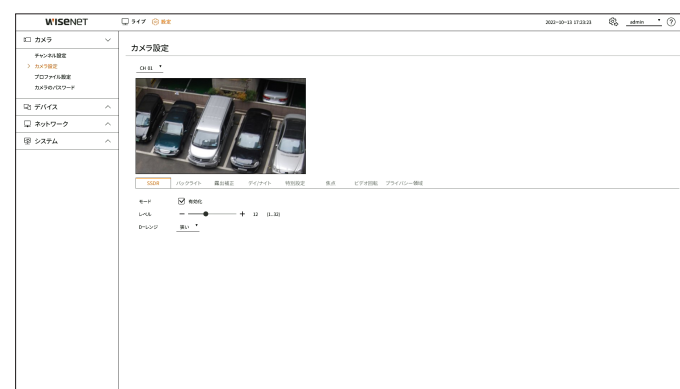
- ＜チャンネル設定＞項目欄の＜アップグレード＞をクリックしてください。
- 接続されたカメラの中でアップグレードできるチャンネルリストが表示されます。
 - リモートサーバーに最新のファームウェアが存在する場合、アップグレードバージョンが表示され、チェックボックスが自動選択されます。
 - アップグレードバージョンが表示されない場合は＜＞をクリックしてサーバーからアップグレードバージョン情報を読み込むことができます。
 - カメラファームウェアが入ったUSBをデコーダーに接続し、＜Q＞をクリックしてUSB内のファームウェアファイルを検索して選択できます。
 - チャンネルを選択して＜他のチャンネルに適用＞をクリックすると、同じモデルが接続された他のチャンネルにもファームウェアを一括適用できます。
- アップグレードするチャンネルのチェックボックスを選択してください。
- ＜アップグレード＞をクリックしてください。カメラのファームウェアアップグレードが開始されます。
 - アップグレード中に他のメニューへ移動できます。
 - アップグレード中に＜停止＞をクリックすると、アップグレードを中止できます。
 - アップグレードを完了すると、ポップアップウィンドウで結果を確認できます。

- 
 Wisenetプロトコル&カメラの管理者アカウントに接続されたチャンネルのみファームウェアアップグレードが可能です。
- 
 カメラのファームウェアが旧バージョンながらもアップグレードバージョンが表示されない場合は、ネットワーク設定をご確認ください。
- 
 USBの最上位フォルダ内のファームウェアファイルが50個を超過する場合、検索できないことがあります。
- 
 USBでのアップグレード中にUSBをデコーダーから接続を解除する場合、システムが再起動することがあります。

カメラ機能設定

選択されたカメラのライブ映像を見ながらカメラ設定ができます。

設定 > カメラ > カメラ設定



- 
 下記の場合にこの機能を使用できます。1.Wisenetプロトコルで接続したカメラ管理者権限つきで接続したカメラ
- 
 カメラ設定に関する詳細は、該当カメラの取扱説明書をご参照ください。カメラによって設定及び操作仕様が異なります。
- 
 一部モデルの場合、当該機能をサポートしていません。

SSDR

暗い部分と明るい部分の明るさの差が激しい環境で、暗い部分の明るさのみを上げ、全体的に均一な明るさの映像を出力します。モード、レベル、D-レンジを設定できます。

バックライト

明るい領域と暗い領域の両方を閲覧できます。モード、WDRレベル、WDR黒レベル、WDR白レベルを設定できます。

露出補正

カメラの露出を調整できます。明るさ、シャッター、SSNR、Sens-up、絞り/レンズ、AGCを設定できます。

- 明るさ：露出値を設定して明るさを調整します。
- シャッター：カメラのシャッター速度を制御して明るさを調整します。シャッターを選択すると、次の項目の中で設定できます。
 - 自動：カメラのシャッター速度を自動で制御して明るさを調整します。
 - ESC(Electronic Shutter Control)：周りの明るさによってシャッター速度を自動で制御して明るさを調整します。
 - 手動：カメラの最大/最小シャッター速度を直接選択して明るさを調整します。
 - アンチフリッカー：周りの照明と周波数が異なるため、画面の揺れ現象が発生する場合、映像の揺れを低下させます。アンチフリッカー周波数を選択すると、シャッター速度を設定できません。

設定

- SSNR：暗い場所でノイズを低下させ、対象物の残像を最小化して明るさを調整します。
- Sens-up：現在光の明るさに応じて自動でシャッター速度を調整しながら明るさを調整します。
- 絞り/レンズ：カメラの絞りとレンズを自動または手動で調整しながら明るさを調整します。
- AGC：暗い場所で映像を撮影される場合、カメラの電気シグナルを増幅させて明るさを調整します。

デイ/ナイト

モードを変更し、カラー及び白黒を調整できます。モード、切替時間、ネガティブカラー、継続時間、アラーム入力、明るさ変更、デイ/ナイト切替後のシンプルフォーカス、動作時間(カラー)を設定できます。

- <モード>でデイ/ナイト映像出力モードを選択できます。
 - カラー：映像が常時カラーに表示されます。
 - 白黒：映像が常時白黒に表示されます。
 - 自動：通常は映像がカラーで表示され、夜間には白黒に表示されます。
 - 外部：アラーム入力ポートに外部赤外線カメラを同期してカラーまたは白黒映像を表示します。<外部>を選択する場合、アラーム入力項目を設定してください。
 - スケジュール：動作時間(カラー)を直接入力して映像出力モードを制御します。<設定>をクリックして動作時間を入力してください。

特別設定

DIS(揺れ補正機能)、曇り除去の使用有無とレベルを設定できます。

焦点

カメラ映像のフォーカスを調整できます。焦点、拡大、シンプルフォーカス、フォーカス初期化を設定できます。

ビデオ回転

ミラーモード、FLIPモード、コリドービューを設定できます。

プライバシー領域

プライバシー保護のため、カメラの画像範囲で非表示にする領域を設定できます。プライバシー設定の使用有無を選択し、新規プライバシー領域を最大32個まで設定できます。

-  ■ PTZカメラの場合は設定ができません。設定ができていても設定領域が不正になる場合があります。

プロファイル設定

ライブプロファイル設定

ネットワークカメラのライブ設定を変更できます。

設定>カメラ>プロファイル設定>ライブ

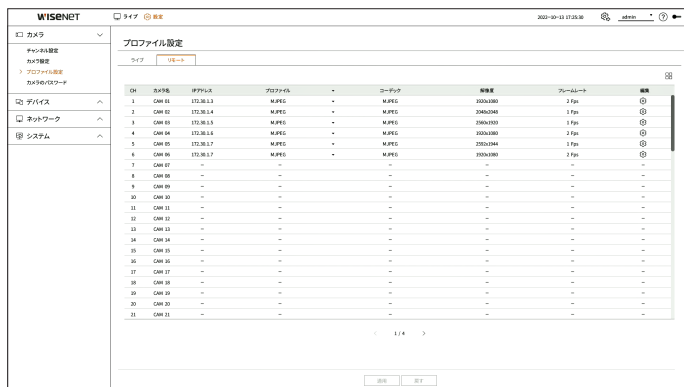


- ：該当チャンネルのカメラをリストまたはサムネイルで表示します。
- カメラ名：カメラ名が表示されます。
- IPアドレス：カメラのIPアドレスが表示されます。
- ライブ置き換え：ライブプロファイル設定モードを選択します。<手動>を選択すると、プロファイル設定項目が有効になり、設定を手動で変更できます。
 - 自動：ライブ監視のためのプロファイルはカメラ登録時、自動に作成された「Live4NVR」プロファイルと共に解像度別の分割モードに合わせて最適化されたプロファイルが表示されます。
 - 手動：ライブ監視のためのプロファイルは登録したカメラプロファイルからユーザーが選択したプロファイルを使用します。
- プロファイル：カメラのプロファイルを設定できます。
- コーデック：選択されたプロファイルのコーデックを表示します。
- 解像度：選択したプロファイルの解像度を表示します。
- フレームレート：選択したプロファイルのフレームレートを表示します。
- 編集：カメラのプロファイルを追加、変更、削除できます。
-  ■ 帯域幅、解像度またはフレームレートなどの映像設定を推奨仕様より高く設定して使用する場合、フレーム低下が発生することがあります。
フレームの低下が発生する場合、以下のプロファイル仕様に設定することをお勧めします。
 - プロファイル推奨仕様：640 x 360、30fps、512Kbps

リモートプロファイル設定

ネットワークに伝送される映像プロファイルを設定できます。

設定 > カメラ > プロファイル設定 > リモート



- **カメラ名**: 該当チャンネルのカメラをリストまたはサムネイルで表示します。
- **カメラ名**: カメラ名が表示されます。
- **IPアドレス**: カメラのIPアドレスが表示されます。
- **プロファイル**: 接続したカメラのリモートプロファイルを設定できます。
- **コーデック**: 選択したリモートプロファイルのコーデックを表示します。
- **解像度**: 選択したリモートプロファイルの解像度を表示します。
- **フレームレート**: 選択されたリモートプロファイルのフレームレートを表示します。
- **編集**: カメラのプロファイルを追加、変更、削除できます。

- **設定されたリモートプロファイルは、プロファイルの<ライブ置き換え>設定によってセカンダリモニタの映像プロファイルとして使用されることがあります。**

プロファイル編集

チャンネル別に登録されたネットワークカメラの映像設定を変更できます。

設定>カメラ>プロファイル設定



- **チャンネル選択**: 映像転送に関する設定を変更するカメラチャンネルを選択します。
- **追加**: カメラのプロファイルを追加します。<追加>をクリックすると、追加ウィンドウが表示されます。情報を入力し、<OK>をクリックするとリストも追加されます。
- **削除**: 選択したプロファイルをリストから削除します。
- **他のチャンネルに適用**: <他のチャンネルに適用>を選択すると、「他のチャンネルに適用」確認ウィンドウが表示されます。設定を適用するチャンネルを選択した後、<OK>をクリックすると設定した内容が選択したチャンネルに適用されます。
- **プロファイル**: 接続されたカメラ設定の映像プロファイルを確認できます。
- **コーデック**: 選択したチャンネルのコーデック情報を確認できます。
- **解像度**: 選択したチャンネルの解像度を変更できます。
- **フレームレート**: 選択したチャンネルのフレームレートを変更できます。
- **ビットレートコントロール**: 選択したチャンネルのビットレートを変更できます。
- **タイプ**: 現在適用されているプロファイルを表示します。

- **製品別に特定プロファイルの設定値を変更する場合、フレームレートの設定範囲が変更されることがあります。** 例) 1番目のプロファイルのフレームレートを30fpsに設定した場合、2番目のプロファイルの設定範囲が15fpsに変更されることがあります。
- **コーデック、解像度、フレームレート以外の設定は、カメラウェブビューアの設定メニューから変更できます。** カメラウェブビューアは、目次の「**設定ビューア > カメラ設定 > カメラ設定**」ページをご参照ください。<カメラウェブビューアー>をクリックすると接続できます。
- **現在のプロファイル設定を変更する場合、一定時間、画面が中断されることがあります。**
- **カメラ設定ページで変更された事項はすぐに適用されますが、外部からカメラウェブページで設定を変更する場合は、3分ほどかかります。**
- **ONVIFカメラの場合、ビットレート設定に対応していません。**

WiseStreamの設定方法

映像の複雑度を分析し、画質は維持しながらデータのサイズを効果的に減らす機能です。詳細については、カメラのヘルプまたは製品の取扱説明書をご参照ください。

<プロフィール詳細設定>画面の下の<ワイズストリーム>ボタンをクリックすると、該当チャンネルのWiseStream設定ポップアップが表示されます。



- モード：映像の圧縮比を選択できます。<オフ>、<低>、<中>、<高>の中で選択できます。
-  ■ デコーダーに登録されたカメラの中に、WiseStreamに対応するカメラがない場合、WiseStreamを設定できません。

ダイナミックGOV/FPS設定

ダイナミックGOVは、映像の状況によってGOV長が自動に変更される機能です。詳細については、カメラのヘルプまたは製品の取扱説明書をご参照ください。

<プロフィール詳細設定>画面の下の<ダイナミックGOV&FPS>をクリックすると、該当チャンネルのダイナミックGOV/FPS設定ポップアップが表示されます。

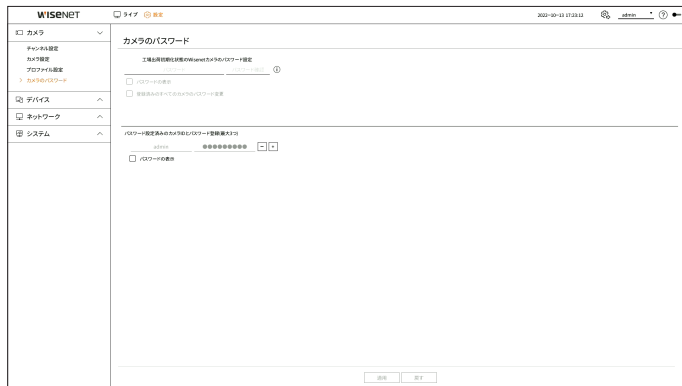


- プロファイル：接続されたカメラ設定の映像プロフィールを表示します。
 - ダイナミックFPS：映像状況によって1秒当たりのフレーム数(frames per second)が自動に変更されるように設定します。
 - ダイナミックGOV
 - モード：GOV長が自動的に変更されるように設定します。
 - 長：映像にモーションがない時に適用する最大GOV長値を入力します。最大GOV長値は、カメラのウェブページで設定できます。
 - 範囲：<長>入力値の範囲を表示します。
-  ■ ダイナミックGOV/FPS設定に対応しないプロフィールは「-」に表示されます。

カメラのパスワード設定

登録済みのすべてのカメラのパスワードを一度に変更できます。
使用するカメラのIDやパスワードを登録できます。

設定>カメラ>カメラのパスワード



- パスワード：パスワード設定規則に適する出荷時の状態のカメラ新規パスワードを入力します。カメラの初期パスワードは必ず入力しなければなりません。
- パスワードの確認：パスワードを再度入力します。
- ID：IDやパスワードが設定されたカメラのIDを入力します。
- パスワード：IDやパスワードが設定されたカメラのパスワードを入力します。



- カメラのパスワードが出荷時の状態の場合には一括変更して管理することができます。
- <①>をクリックすると、パスワード設定のための基本ガイドが表示されます。
- <パスワードの表示>をチェックすると、現在作成中のパスワードが入力された文字で表示されます。
- <登録済みのすべてのカメラのパスワード変更>をチェックすると、入力したパスワードですべてのカメラのパスワードが変更されます。
- パスワードが設定されたカメラIDとパスワード登録は最大3セットまで可能です。登録済みのカメラID/PW情報で「**チャンネル設定** > **自動検索**」画面でカメラを自動検索してすぐに登録できます。
- ONVIF及びRTSPで登録済みのカメラのパスワードは変更されません。

デバイス設定

モニターに関する詳細設定ができます。

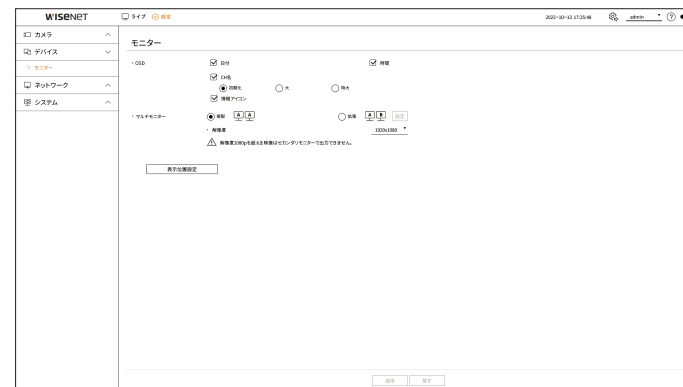
モニター

モニターに表示する情報、情報の位置、映像出力方式を設定できます。

設定>デバイス >モニター

モニター設定

モニター出力とに関する画面表示内容と映像出力などを設定できます。



- OSD：日付、時間、チャンネル名、情報アイコンの中でチェックされた項目のみモニター画面に表示されます。
 - ライブ画面に表示されるチャンネル名のサイズを調整できます。<初期化>、<大>、<特大>の中から選択してください。
- マルチモニター：映像出力のための解像度を設定します。セカンダリモニターーに対応する製品は、映像出力のための<複製>または<拡張>モードを選択した後、解像度を設定できます。
 - 複製：プライマリモニターとセカンダリモニターの映像出力解像度を同一に設定できます。クローンモードに動作時、1920 x 1080を超過する解像度を設定すると、セカンダリモニターに映像が出力されません。
 - 拡張：プライマリモニターとセカンダリモニターの映像出力解像度をそれぞれ設定できます。
 - プライマリモニターは4K解像度(または1080p)に対応し、セカンダリモニターは1080p解像度に対応します。



- 変更した解像度がモニターに合わない場合、映像が正常的に出力されません。一定時間が過ぎて基本解像度に変更された後、他の解像度を選択してください。
- デコーダーのモデルによってプライマリモニターとセカンダリモニターの出力ポートが異なります。
 - プライマリモニター：HDMI
 - セカンダリモニター：HDMIまたはVGA

拡張モニター設定

拡張モニターに対応する製品にのみ提供する機能です。



1. 映像出力の<拡張>を選択した後、<設定>をクリックしてください。セカンダリモニターのレイアウトを変更できます。
2. 任意のレイアウトを選択してください。
拡張モニターのレイアウトを設定する際、メインモニターで設定されたレイアウト一覧から一つを選択し、拡張モニターに同じレイアウトを適用できます。

❗ ■ 基本レイアウト以外に追加されたレイアウトのうち25分割以下のレイアウトがある場合にのみ、拡張モードに変更できます。

- 📝 ■ 拡張モードを選択すると、プライマリモニター(HDMI)の映像出力の最大解像度が1920 x 1080に制限されます。
- 変更した解像度がモニターに合わない場合、映像が正常的に出力されません。一定時間が過ぎて基本解像度に変更された後、他の解像度を選択してください。
- シーケンス切替時間を設定する時は、ネットワーク環境を考慮して時間を設定してください。
- 拡張モニターのライブ出力で使用するプロファイルはリモートプロファイルを使用します。ユーザーがリモートプロファイルを変更する場合、拡張モニターの映像出力に影響を与えることがあります。
- モニターをクローンモードに設定するとモニターに、デコーダーに対応する最大分割モードまで指定できます。モニターを拡張モードに設定すると、デコーダーモデルによって拡張モニターの画面を25分割まで指定できます。
- 動的レイアウト機能はプライマリモニターでのみ設定できます。

表示位置設定

モニターの状態によって一部のモニターにはデコーダーの情報表示(カメラ名、アイコン)が見えないことがあります。その場合、モニターに表示される情報の位置を調整できます。



1. モニター設定画面から <表示位置設定>をクリックしてください。
2. <◆>を利用して見えない画面を調整してください。
3. <OK>をクリックしてください。

📝 ■ 本製品は、4K解像度で30Hzのみ対応します。

ネットワーク設定

デコーダーのネットワーク設定ができます。

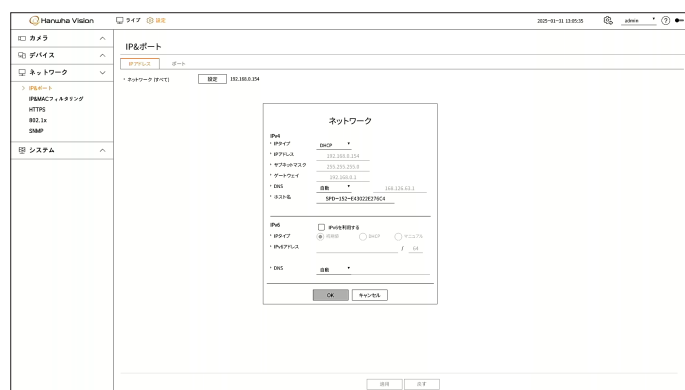
IP&ポート

ネットワーク接続ルート及びプロトコルを設定できます。

ネットワーク接続の設定

ネットワークのネットワーク接続方式と接続環境を設定します。

設定>ネットワーク>IP&ポート>IPアドレス



- ・ ネットワーク(すべて) :カメラとウェブビューア接続のための共通ポートとして使用できます。
- ・ 設定
 - IPタイプ: ネットワーク接続タイプを選択できます。
 - IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS
 - マニュアル: IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSを直接入力できます。
 - DHCP: IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ値を自動的に設定できます。



- DHCPのDNS値は<マニュアル>に選択した場合のみ直接入力できます。

ネットワーク接続と設定

ネットワーク設定方法は接続方法によって異なるため、接続モードを設定する前にお使いの環境を確認してください。

ルーターを使用しない場合

- ・ 手動設定モード
 - インターネット接続: 静的IP及び専用線で接続したり、LAN環境でデコーダーとリモートユーザーを接続することができます。
 - ネットワーク設定: 接続されたデコーダーの <IPタイプ>を<マニュアル>に設定してください。
 - IPアドレス、ゲートウェイ、サブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- ・ DHCP設定モード
 - インターネット接続: ケーブルモデムにデコーダーを直接接続したり、DHCP方式のモデムにデコーダーを直接接続または、光LANにデコーダーを直接接続できます。
 - ネットワーク設定: 接続されたデコーダーの <IPタイプ>を<DHCP>に設定してください。

ルーターを使用する場合

- デコーダーの静的IPとの衝突を避けるため、下記の事項をご確認ください。

- ・ デコーダー静的IPで設定
 - インターネット接続: ケーブルモデムを接続したIPルーターにデコーダーを接続したり、ローカルネットワーク(LAN)環境でIPルーターにデコーダーを接続できます。
 - ・ デコーダーネットワーク設定
 1. 接続されたデコーダーの<IPタイプ>を<マニュアル>に設定してください。
 2. IPアドレスが、IPルーターから提供する静的IP範囲内にあるかをご確認ください。IPアドレス、ゲートウェイ、サブネットマスク: ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- DHCPサーバーの開始アドレス(192.168.0.100)と終了アドレス(192.168.0.200)が設定されている場合、その他のIPアドレス(192.168.0.2～192.168.0.99または192.168.0.201～192.168.0.254)に設定する必要があります。
3. ゲートウェイ、サブネットマスクがIPルーターで提供している値と同じかをご確認ください。

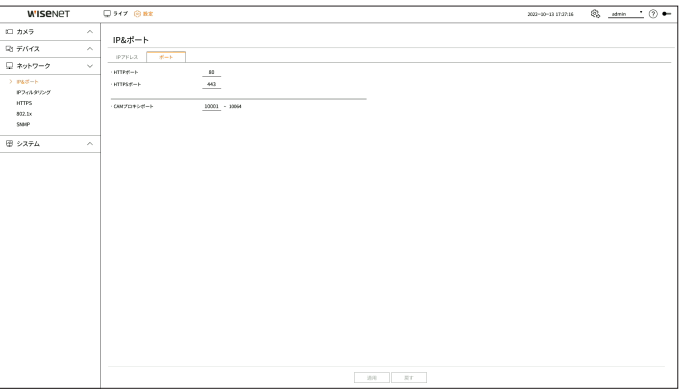
ルーターのDHCP IPアドレスの設定

- 1. IPルーターの設定メニューにアクセスするには、IPルーターに接続されているローカルPCのブラウザを開き、IPルーターの接続アドレスを入力してください。(例：http://192.168.1.1)
- 2. その時、まずはローカルPCのWindowsネットワーク設定を以下の例のように指定してください。
例) IP : 192.168.1.2
Subnet Mask : 255.255.255.0
Gateway : 192.168.1.1
 - IPルーターアドレスに接続すると、パスワードを要求するウィンドウが表示されます。ユーザー名には何も入力せず、パスワードに「admin」を入力して<OK>をクリックすると、IPルーターの設定ページが表示されます。
 - ルーターのDHCP設定メニューで、DHCPサーバーモードを選択した後、開始アドレスと終了アドレスを入力してください。
 - 開始アドレス：192.168.0.100
 - 終了アドレス：192.168.0.200

■ ネットワーク設定方法はルーターのタイプによって異なります。

ポート設定

設定>ネットワーク>IP&ポート >ポート

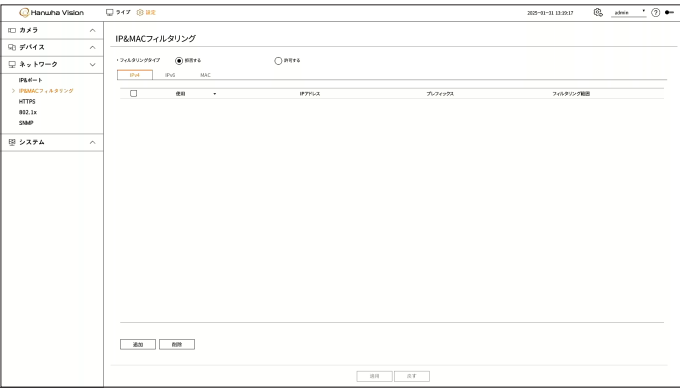


- HTTPポート：HTTPウェブビューア用のポート値を入力します。初期値は<80>に設定されています。
- HTTPSポート：HTTPSウェブビューア用のポート値を入力します。初期値は <443>に設定されています。
 - HTTPSはHTTPウェブ通信プロトコルのセキュリティを強化したバージョンです。ウェブビューアに接続する時、セキュリティが重要な場合はHTTPSポートを使用してください。
- CAMプロキシポート：カメラのプロキシポート値を入力します。初期値は<10001>に設定されています。

IP&MACフィルタリング

特定のIPとMACについての接続を「許可する」または「拒否する」リストを作成できます。

設定>ネットワーク>IP&MACフィルタリング



- フィルタリングタイプ
 - 拒否する：登録されたIPまたはMACのアクセスを制限します。
 - 許可する：登録されたIPまたはMACのアクセスのみ許可します。

IPv4またはIPv6フィルタリング設定時

- 有効：登録されたIPフィルタリングの使用状況の確認を選択します。
- IPアドレス：登録されたIPアドレスを表示します。IPアドレスをダブルクリックすると、設定値を変更することができます。
- プレフィックス：フィルタリングするプレフィックスを表示します。プレフィックスをダブルクリックすると、設定値を変更することができます。
- フィルタリング範囲：IPアドレス又はプレフィックスを入力した場合、ブロック又は許可されているIPアドレスの範囲が表示されます。

■ カメラのIPアドレスが許可リストに含まれていない場合、又は却下リストに含まれている場合、アクセスは却下されます。
■ IPv4の場合、PoEポートでのカメラIPフィルタリングはすぐ適用されません。(既存の接続は維持され以後接続を試す時にフィルタリング適用)

フィルタリングするIPアドレスを登録するには

1. IPv4、IPv6の中で登録するIPタイプタブを選択してください。
2. 画面の下にある<追加>をクリックしてください。
3. 追加ウィンドウが表示されると、詳細項目を設定してください。
 - IPフィルタリング：IPフィルタリングの使用状況の確認を選択します。
 - IPアドレス：IPフィルタリングを使用するアドレスを入力します。
 - IPアドレスを入力する時、0-255範囲の値を入力しなければ登録されません。
 - プレフィックス：プレフィックスの値を入力します。
4. <OK>をクリックして完了してください。

■ 登録された項目を削除するには、削除する項目のチェックボックスを選択した後、画面の下にある<削除>をクリックしてください。

MACフィルタリング設定時

- 有効:登録されたMACフィルタリングを有効にするかどうかを選択します。
- MACアドレス:登録されたMACアドレスを表示します。MACアドレスをダブルクリックすると、設定値を変更できます。

! ■ ネットワーク機器のMACアドレスが「拒否する」の項目に含まれている場合や、「許可する」の項目に含まれていない場合、ネットワーク機器との通信が遮断されます。

フィルタリングするMACアドレスを登録するには

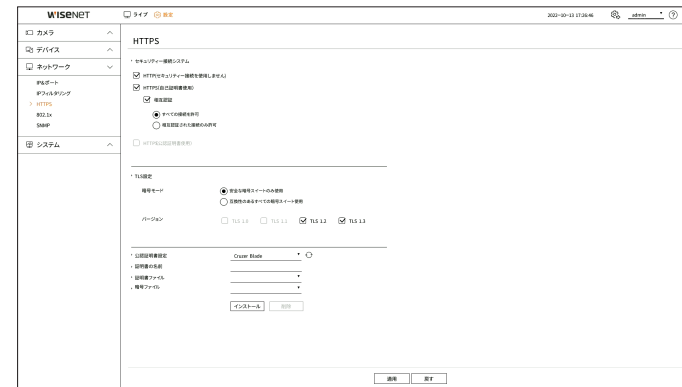
1. MACタブを選択してください。
 - ・<自動検索>をクリックすると、現在登録されているネットワーク機器のMACアドレスが自動でリストに追加されます。
2. 画面下段の<追加>をクリックしてください。
3. 追加ウィンドウが表示されたら、詳細項目を設定してください。
 - ・有効:MACフィルタリングを有効にするかどうかを設定します。
 - ・アドレス:MACフィルタリングを有効にするアドレスを入力します。
4. <OK>をクリックし、完了してください。

✎ ■ 登録された項目を削除するには、削除したい項目のチェックボックスを選択してから、下段の<削除>をクリックしてください。

HTTPS

セキュリティ接続システムを選択したり、証明書をインストールできます。

設定>ネットワーク >HTTPS



- ・セキュリティ接続システム:セキュリティ水準を考慮して使用環境に合うセキュリティ接続システムを選択できます。HTTPS(HyperText Transfer Protocol Secure)はHTTPよりセキュリティが強化されたバージョンで、TLS(Transport Layer Security)を使用してユーザーのページ要請を暗号化/復号化する過程を通してデータのやり取りを行います。
 - HTTP(セキュリティ接続を使用しません):暗号化せずにデータを転送できます。
 - HTTPS (自己証明書使用):デコーダーが提供する証明書を使用してセキュリティ接続します。
 - 相互認証:セキュリティ強化のために相互認証を進行できます。<すべての接続を許可>を選択すると相互認証できない場合もデコーダーに接続できます。<相互認証された接続のみ許可>を選択すると相互認証に成功した場合のみデコーダーに接続できます。
 - HTTPS (公認証明書使用):公認証明書を使用してセキュリティ接続します。公認証明書を設置してから選択できます。
- ・TLS設定:暗号化通信に使用する暗号モードやTLS/バージョンを選択できます。
 - 暗号モード:キー交換、認証、暗号化など、TLS暗号化通信に使用する複数のアルゴリズムを組み合わせる暗号スイート(Cipher suites)を提供します。<安全な暗号スイートのみ使用>はセキュリティ性の優秀な暗号スイートのみ使用します。互換性を考慮する場合は<互換性のあるすべての暗号スイート使用>を選択してください。但し、セキュリティに関係なく全ての暗号スイートを含むため、セキュリティが弱い可能性があります。
 - バージョン:暗号化通信に使用するTLSプロトコル/バージョンを選択できます。
 - <暗号モード>を<安全な暗号スイートのみ使用>に設定した場合は、<TLS 1.2>または<TLS 1.3>のみ選択できます。
- !** ■ デコーダーが外部インターネットに接続されていたり、セキュリティが大事な環境にインストールする場合、HTTPS接続使用をお勧めします。
- ・公認証設定:インストールする公認証明書をスキャンして登録できます。証明書をインストールするには、認証機関で発行した証明書ファイル、暗号ファイルをインストールする必要があります。<インストール>をクリックして証明書を登録してください。
 - <HTTPS (公認証明書使用)>モードでは公認証明書をインストールしたり削除できません。<HTTP (セキュリティ接続を使用しません)>または<HTTPS (自己証明書使用)>モードに変更した後、行ってください。
 - 証明書ファイルは.crt、キーファイルは.keyでインストールしてください。
 - 証明書とキーファイルはRSA(2048以上をお勧め)またはECCで生成したPEM形式を使用してください。
 - 証明書とキーファイルはパスワードを設定していないPKCS#1、PKCS#8を使用してください。

802.1x

ネットワークに接続する時、802.1xプロトコルの使用有無を選択して証明書をインストールできます。

802.1xはサーバーとクライアントとの認証システムで、送受信ネットワークデータのハッキングやウイルス感染および情報漏れを防止します。

802.1xを使用すると、認証されていないクライアントの接続をブロックし、認証されたユーザーにのみ通信を許可してセキュリティを強化することができます。

設定>ネットワーク>802.1x



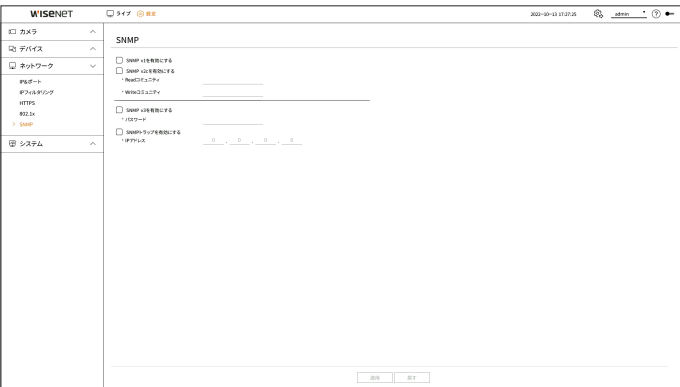
- EAPOLのバージョン：プロトコルとして使用するEAPOLのバージョンを選択します。
 - 一部のスイッチハブの中には、バージョン<2>に設定した時、通信できないこともあります。EAPOL初期値のバージョン<1>を選択してください。
- ID：RADIUSサーバー管理者から提供されたIDを入力します。
 - 入力したIDがクライアントの証明書のIDと一致しない場合、正常に処理されません。
- パスワード：RADIUSサーバー管理者から提供されたパスワードを入力します。
 - 入力したパスワードがクライアントのプライベートキーと一致しない場合、正常に処理されません。
- 証明書：デバイスを検索します。<↺↻>をクリックするとデバイスを再検索します。
- 認証局証明書：パブリックキーが含まれている公認証明書の場合に選択します。
- クライアント証明書：クライアント認証キーが含まれて公認証明書の場合に選択します。
- クライアントのプライベートキー：クライアントのプライベートキーが含まれている公認証明書の場合に選択します。

- 802.1xの動作環境をうまく構築するために、管理者はRADIUSサーバーを使用する必要があります。また、サーバーに接続されるスイッチハブは802.1xをサポートしているデバイスのみ可能です。
- RADIUSサーバー、スイッチハブ、デコーダーの時間が一致しない場合、デバイス間の通信ができないことがあります。
- クライアントのプライベートキーにパスワードがかかっている場合、サーバー管理者にIDとパスワードを確認する必要があります。ID、パスワードはそれぞれ最大30文字まで作成できます。(但し、英文、数字、特殊文字(「_」、「|」、「」の3種類)のみに限られます。)パスワードで保護されていないファイルへのアクセスは、パスワードを入れなくても可能です。
- デコーダーの802.1x対応プロトコルはEAP-TLSです。
- 802.1xを使用するためには、証明書3点をすべてインストールする必要があります。

SNMP

SNMPプロトコルでシステムやネットワーク管理者がリモートでネットワークデバイスをモニタリング、環境設定をすることができます。

設定>ネットワーク>SNMP



- SNMP v1を有効にする：SNMP v1を使用します。
- SNMP v2cを有効にする：SNMP v2cを使用します。
 - Readコミュニティ：SNMP情報にアクセスするための読み取り専用のコミュニティ名を入力します。
 - Writeコミュニティ：SNMP情報にアクセスするための書き込み専用のコミュニティ名を入力します。
- SNMP v3を有効にする：SNMP v3を使用します。
 - パスワード：SNMP v3の初期ユーザーパスワードを設定します。
- SNMPトラップを有効にする：重要なイベントや状態を管理システムに送信するためにSNMPトラップを使用します。
 - IPアドレス：メッセージの送信先となるIPアドレスを入力します。

システム設定

システム使用時に表示される日付、言語、権限などを設定したり、システム情報やログ情報などを照会できます。

日付/時刻/言語

現在の日付と時刻、時間に関する設定を確認または変更したり、画面に表示される言語を設定できます。

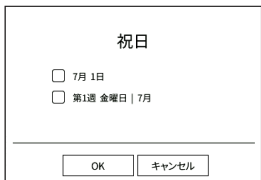
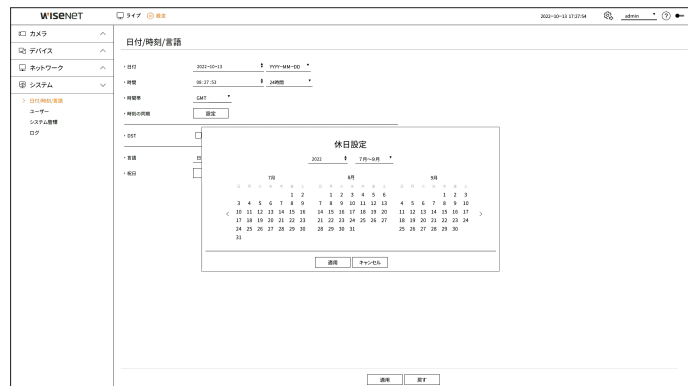
設定>システム>日付/時刻/言語



- 日付：画面に表示される日付とその表示方式を選択します。
- 時間：画面に表示される時刻とその表示方式を設定します。
- 時間帯：グリニッジ標準時(GMT)に基づき、デコーダーをお住まいの地域の標準時間帯に設定します。
 - GMT(Greenwich Mean Time)とは、世界標準時のことです。
- 時刻の同期：時刻サーバーとの同期有無を設定します。<設定>をクリックすると、時刻同期の設定画面が表示されます。<NTPサーバーと同期>>を使用すると、デコーダーの現在時刻が<NTPサーバーアドレス>で指定されたサーバーによって同期化されるため、手動で時間情報を変更できません。
 - NTPサーバーと同期化：時刻サーバーとの時刻同期の使用有無を選択します。
 - NTPサーバーアドレス：時刻サーバーのIPアドレス、またはURLを入力します。
 - 最後の同期：現在設定された時刻サーバーと最も最近に同期した時間を表示します。
 - NTPサーバーとして有効にする：<有効>を選択すると、このデコーダーが他のデコーダーまたはネットワークカメラの時刻サーバーとして動作します。
- DST：サマータイムの開始と終了期間を設定したら、設定した期間中には該当する地域の標準時より1時間早めた時刻に設定されます。
- 言語：言語を選択してください。選択された言語で表示されます。

 ■ 製品のリリースエリアによって言語、標準時間帯の設定が異なります。

- 祝日：ユーザーの都合に合わせて特定の日付を休日として指定できます。<設定>をクリックすると表示されるカレンダーから休日を選択してください。



例) 7月1日を選択して、<7月1日>だけチェックすると、マイ時の7月1日が休日に、<7月1日>と<第1週目の金曜日 | 7月>をすべてチェックすると、毎年の7月1日と7月の第1週目の金曜日が休日に設定されます。

カレンダーを使用するには



- 年月を選択します。
 - 年の右側にある<◆>をクリックすると、年が1年ずつ変更されます。
 - 月の右側にある<▼>をクリックすると、月が3カ月ずつ変更されます。
- 日付を選択して<適用>をクリックしてください。

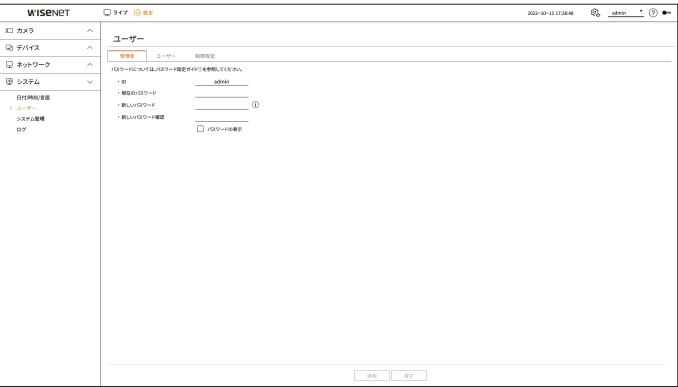
ユーザー

ユーザーの追加または削除、ユーザー別に異なる使用権限を与えるなど、ユーザー管理ができます。

管理者の設定

管理者IDとパスワードを設定したり変更できます。管理者はメニュー項目と機能をすべて使用したり設定できます。

設定>システム>ユーザー>管理者

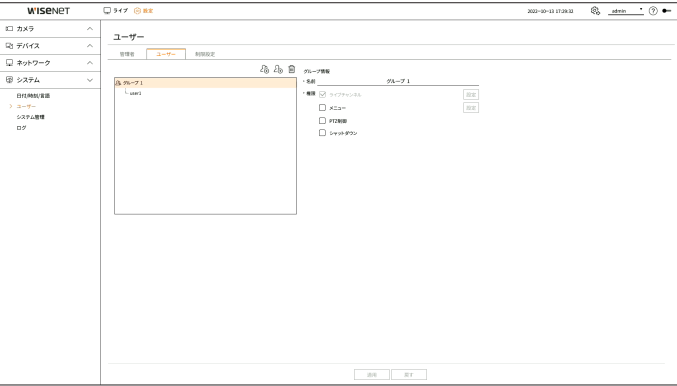


- ID: 管理者IDを変更します。
- 現在のパスワード: 現在のパスワードを入力します。
- 新しいパスワード: 新しいパスワードを入力します。
- 新しいパスワード確認: 新規に設定するパスワードをもう一度入力します。
 - <パスワードの表示>をチェックすると、暗号化されていたパスワードが入力された文字で表示されます。
- 初期の管理者IDは「admin」で、初回ログイン時にインストールウィザードでパスワードを設定する必要があります。
- 個人情報を安全に保護し、情報漏洩の被害を防ぐため、3か月に1回パスワードを変更してください。パスワードの管理ミスによるセキュリティ及びその他の問題は、ユーザー側の責任となりますことを御了承ください。
- <❗>をクリックすると、パスワード設定のための基本ガイドが表示されます。

ユーザー設定

ユーザーグループを作成してグループ別に権限を設定できます。作成したユーザーグループにユーザーを登録して削除するなど、ユーザー情報を管理できます。

設定>システム>ユーザー>ユーザー



グループを追加するには

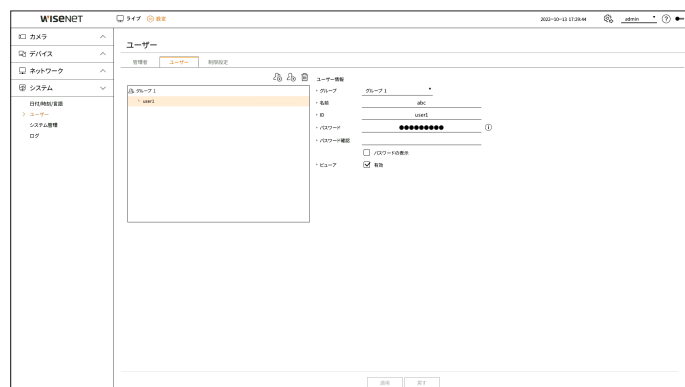
1. <➕>をクリックすると、グループ追加ポップアップウィンドウが表示されます。グループを追加するには、<OK>をクリックしてください。
2. 右側のグループ名項目をクリックすると、グループ名を入力できる仮想キーボードが表示されます。登録するグループ名を入力してください。
 - 最大10グループまで登録可能です。

グループ権限を設定するには

グループのアクセス権限を設定します。グループに属したユーザーは、権限が与えられたメニューだけ使用できます。

1. グループ権限を設定するメニューを選択してください。
 - ライブチャンネル: ライブ画面にアクセスできる権限をチャンネル別に設定できます。
 - メニュー: グループに属するユーザーがアクセスできる設定メニューを選択できます。<メニュー>をチェックすると「**メニュー権限**」ポップアップウィンドウが表示されます。項目を選択した後、<OK>をクリックしてください。<設定>をクリックして選択した項目を変更できます。
 - PTZ制御: グループに属するユーザーがPTZカメラを制御できます。
 - シャットダウン: グループに属するユーザーがシステムをシャットダウンできます。
 - 権限が設定されたメニューは、該当グループのユーザーがログインする時、ライブメニューに表示されます。
2. <適用>を選択してください。該当グループのユーザーたちに設定された項目に対するアクセス権限が与えられます。

ユーザーを登録するには



1. <ユーザー追加>をクリックすると、ユーザー追加ポップアップウィンドウが表示されます。ユーザーを追加するには、<OK>をクリックしてください。
2. グループを選択してください。ユーザーを登録する時、選択したグループに自動登録されます。
 - ユーザー情報をすべて入力した後、グループを変更できます。
3. 名前、ID、パスワード(パスワード確認)を入力し、ビューアの使用有無選択してください。<ビューア>を有効にすると、ウェブビューアとネットワークビューアへの使用権限が与えられます。
 - <パスワードの表示>をチェックすると、暗号化されていたパスワードが入力された文字で表示されます。
4. <適用>をクリックしてください。登録されたユーザー情報が保存されます。

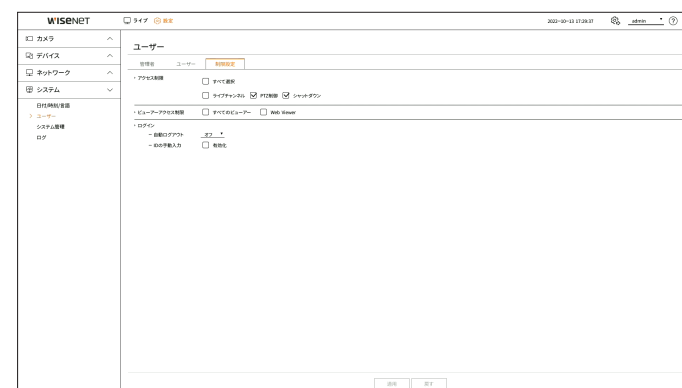
グループ及びユーザー情報を削除するには

1. 削除するグループやユーザーを選択して<削除>をクリックしてください。
2. 削除の確認ウィンドウが表示されたら、<OK>をクリックしてください。

制限設定

ユーザーのアクセス制限項目やネットワーク制限項目を設定します。
アクセスが制限された項目は、ログインしてから設定できます。

設定>システム>ユーザー>制限設定



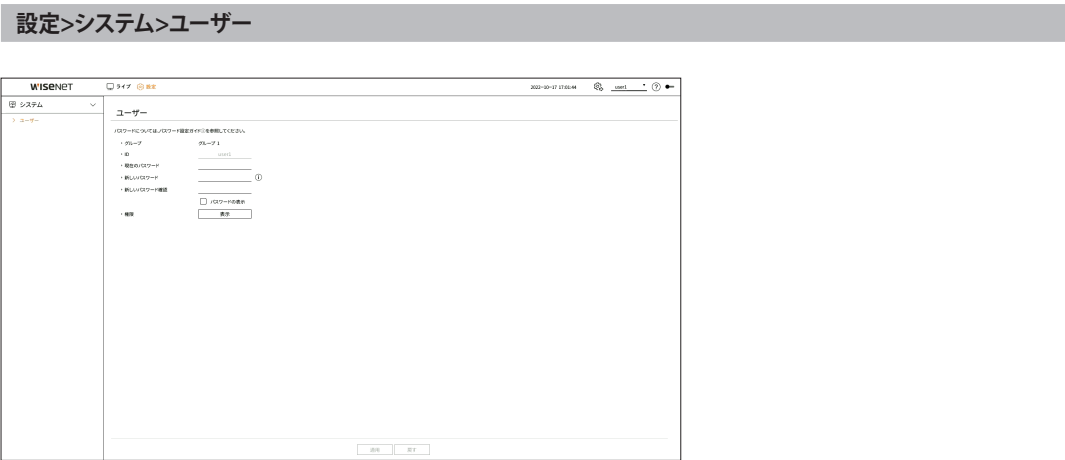
- アクセス制限：ユーザーのアクセスを制限するメニューを設定できます。
 - チェックあり(): アクセス可能
 - <ユーザー>で該当メニューに対する権限設定とは関係なく、すべてのユーザーが該当メニューにアクセスできます。
- ビューアアクセス制限：ユーザーのリモートアクセスを制限できます。
 - すべてのビューア：すべてのユーザーがネットワーク接続およびウェブビューアにアクセスできないように設定します。
 - Web Viewer：すべてのユーザーがウェブビューアに接続できないように設定します。
- 自動ログアウト：ユーザーがログインした後、設定された時間の間に デコーダーを操作しないと自動にログアウトされます。
- IDの手動入力：ログインウィンドウで、IDを直接入力するかを選択します。

ユーザーにアクセス制限がかかっている場合

一般ユーザーがアクセス権限のないメニューを選択すると、アクセス制限の確認ウィンドウが表示されます。すべての権限が制限された場合、ライブ画面メニューの中でアクセスできるメニューだけ表示され、ユーザー本人のパスワードだけ変更できます。

ユーザーパスワードを変更するには

メニューアクセスが制限されているグループのユーザーIDでログインした場合、ユーザー本人のパスワードのみ変更できます。



1. ログインしてください。
2. <システム>で<ユーザー>を選択してください。
3. 現在のパスワードを入力してください。
4. 新しいパスワードを入力してください。パスワード確認欄に変更するパスワードを再度入力します。
5. <適用>を選択してください。ユーザーのパスワードが変更されます。

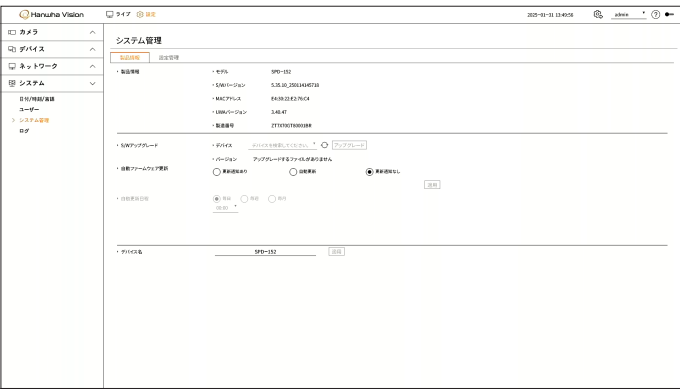
システム管理

現在のシステムバージョンを確認して新しいバージョンにアップデートしたり、データのエクスポート、設定初期化などを実行できます。

システム情報の確認

システムの現在のバージョンとMACアドレスを確認してアップグレードできます。

設定>システム>システム管理>製品情報

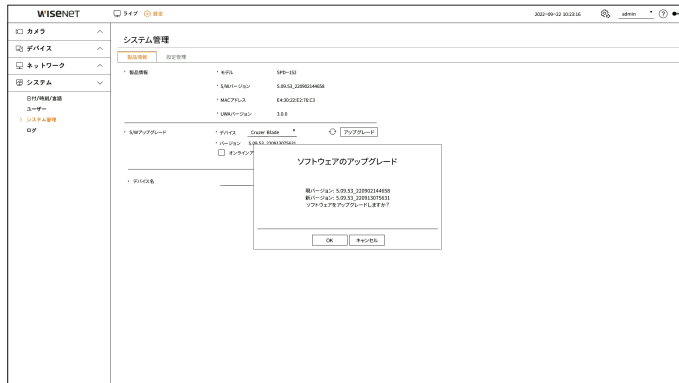


- ・製品情報：現在のシステム情報を確認できます。
 - モデル：製品のモデル名を表示します。
 - S/Wバージョン：使用している製品のソフトウェアバージョンが表示されます。ソフトウェアバージョンを確認してからアップグレードできます。
 - MACアドレス：製品のMACアドレスを表示します。
 - UWAバージョン：製品のUWAバージョンを表示します。
 - 製造番号：製品の製造番号を表示します。
- ・S/Wアップグレード：検索されたデコーダーのソフトウェアを最新バージョンにアップグレードします。
 - 正常接続されていない場合、ソフトウェアのアップグレード項目は表示されません。
 - <↺>をクリックすると、USBやネットワークにあるソフトウェアを検索できます。
 - アップグレード完了後、自動で再起動されます。アップグレード中に電源オフされないようにご注意ください。
- ・デバイス名：製品のデバイス名を入力できます。VMS、Device Managerなどで数台のデコーダーを区分するために異なるデバイス名を入力することをお勧めします。

■ デコーダーモデルによって表示されるシステム情報が異なります。

ソフトウェアをアップグレードするには

設定>システム>システム管理>製品情報

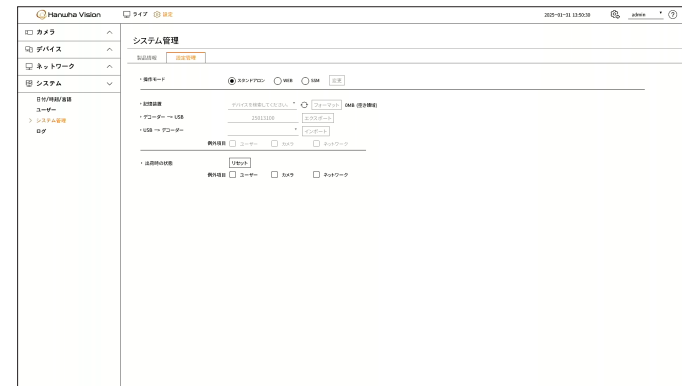


- アップグレードするソフトウェアが保存されているデバイスを接続してください。
 - デバイスを認識するまで約10秒程かかります。
 - アップグレード可能なデバイスはUSBメモリ、ネットワークです。
 - ネットワークでアップグレードをするには、製品が外部ネットワークに接続されている必要があります。プロキシサーバー経由のアップグレードは、アクセス制限が原因でアップグレードできない場合があります。
- 認識されたデバイスが表示されたら、<**アップグレード**>を選択してください。
 - アップグレードメニューウィンドウでデバイスを接続した場合、<🔄>をクリックして実行できるソフトウェアを検索します。
 - ネットワーク上にアップグレードバージョンがある場合、ポップアップが表示されます。
 - <**アップグレード**>は現在のS/Wバージョンより上位バージョンがある場合のみ有効になります。
- <**ソフトウェアのアップグレード**>ウィンドウで<**OK**>をクリックしてください。
 - アップグレードが行われると、段階的に画面が変わります。
- アップグレードが完了したら、自動で再起動されます。再起動するまでシステムの電源を切らないでください。
 - 「**アップグレードに失敗しました**」が表示されたら、ステップ2から再試行してください。繰り返し失敗する時は、サービスセンターにお問い合わせください。

設定管理

デコーダーを制御できる操作モードを設定できます。また、使用中のデコーダの設定情報を他のデコーダーに同じように適用したり、製品を初期化できます。

設定>システム>システム管理>設定管理



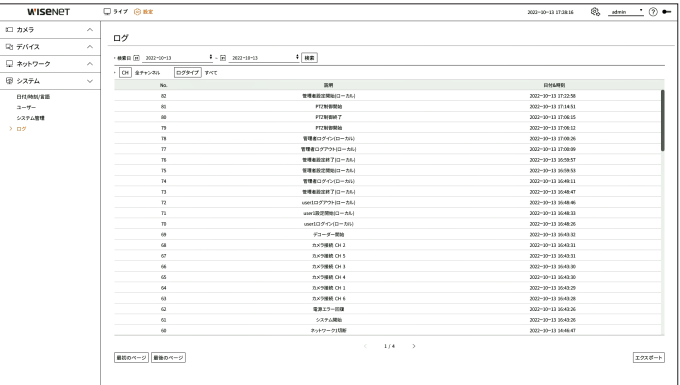
- 操作モード：管理者権限がある場合、デコーダーを制御できる操作モードを選択できます。
 - スタンドアロン：デコーダーで、該当カメラのライブモニタリングと設定変更などの制御ができます。ウェブビューアでは、管理者アカウント情報と操作モードのみ変更できます。
 - WEB：デコーダーでは、該当カメラのライブモニタリングのみ可能で、設定変更や制御はウェブビューアでのみできます。
 - SSM：デコーダーではこのカメラのライブモニタリングのみ可能で、設定の変更や制御はSSMでのみ行えます。
- 記憶装置：接続されている記憶装置を表示します。
 - <🔄>をクリックすると、記憶装置を検索して表示します。
 - <**フォーマット**>をクリックすると、フォーマット確認ウィンドウが表示されます。<**はい**>をクリックすると選択された記憶装置をフォーマットします。
- デコーダー → USB：デコーダーに設定された情報を記憶装置に保存します。
 - <**エクスポート**>を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。<**OK**>を選択するとデコーダー情報がファイルで保存されます。
- USB → デコーダー：記憶装置に保存された設定情報をデコーダーに適用します。
 - 例外項目を選択すると、該当項目を除いた情報だけをインポートできます。
 - <**インポート**>を選択すると、記憶装置に保存された設定情報を読み込むことができます。<**OK**>を選択すると、読み込んだ情報をデコーダーに適用します。
 - 設定値の<**エクスポート**>、<**インポート**>は同じソフトウェアバージョンでしか使用できません。
- 出荷時の状態：システム設定を製品を購入した当時の設定に初期化できます。但し、ログは初期化されません。例外項目を選択すると、当該項目を除いた残りの設定のみ初期化されます。<**リセット**>を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。<**OK**>を選択すると、選択した項目が初期化されます。

- 設定情報をエクスポートすると、記憶装置の decoder フォルダに設定情報がファイルで保存されます。
- 設定情報をインポートするには、設定情報ファイルが記憶装置の decoder フォルダにある必要があります。

ログ

システムログに記録されるデータは、システムの起動、システムの終了、メニュー設定の変更など、システムに関するログ内容と実行された日付と時間を表示します。

設定>システム > ログ

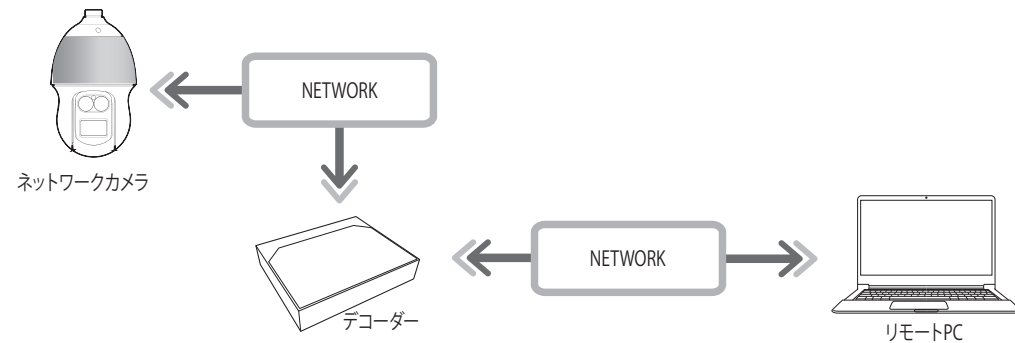


- ・ 検索日: カレンダーアイコンをクリックしたら表示されるカレンダーウィンドウを利用したり、方向ボタンを使用してシステムログを検索する日付を選択します。
- ・ 検索: 日付を指定してボタンをクリックするとログ一覧に検索結果が表示されます。
- ・ CH: 検索するチャンネルを選択します。
- ・ ログタイプ: ログ情報が多すぎる場合、ログタイプだけを選択し、必要な内容のログのみを検索できます。タイプを選択した後、<適用>をクリックしてください。
- ・ 最初のページ/最後のページ: 検索結果が多い場合、最初/最後のページに移動します。
- ・ エクスポート: デコーダーに記録されたすべてのログ情報を記憶装置に保存します。

ウェブビューアの開始

ウェブビューアとは

ウェブビューアは、リモートでアクセスしてデコーダーの設定を変更できるソフトウェアです。



主な機能

- ブラウザを使用したリモート接続
- 分割モード対応

 ■ 製品に対応するチャンネル数によって画面分割モードが異なります。

システム要求事項

ウェブビューアを実行するための最低限推奨されるハードウェアとOSの要件は次の通りです。

- ブラウザはOSが推奨するブラウザをご使用ください。例示) Microsoftの推奨ブラウザ: Microsoft Edge
- 対応ブラウザ: Chrome, Edge, Safari
- 対応OS: Platform独立的なウェブの特性上Windows、Linux、OS X環境ですべて動作できます。
- 検証環境: Windows® 10のEdge 91、Google Chrome™ 91、NVIDIA® GeForce® GTX™ 1050を含むIntel® Core™ i7-7700プロセッサ3.60GhzまたはIntel™ HD Graphics 630でテスト及び検証しました。

ウェブビューアの接続

1. ウェブブラウザを開いてアドレスバーにデコーダーのIPアドレスまたはURLを入力してください。
2. 管理者権限を持つユーザーは管理者IDとパスワードを入力してください。登録済みのユーザーはユーザーIDとパスワードを入力する必要があります。

The screenshot shows a login interface with the title 'ログイン' (Login). Below the title is the URL 'http://192.168.219.193' and a warning: 'このサイトへの接続ではプライバシーが保護されません' (This connection to the site does not protect your privacy). There are two input fields: 'ユーザー名' (Username) and 'パスワード' (Password). At the bottom, there are two buttons: 'ログイン' (Login) and 'キャンセル' (Cancel).

3. ログインすると、ライブビューアのメイン画面が表示されます。

-  ■ すべての設定はデコーダーの設定によって適用されます。
- ウェブビューアに接続する際にウェブポートを変更すると、ブラウザによってはポートがブロックされてアクセスに失敗することがあります。その時は、別のポートに変更してください。
- 個人情報を安全に保護し、情報漏洩の被害を防ぐため、3か月に1回パスワードを変更してください。パスワードの管理ミスによるセキュリティ及びその他の問題は、ユーザー側の責任となりますことを御了承ください。

-  ■ ウェブビューアには、管理者またはユーザー1人のみがアクセスできます。
- 管理者や一般ユーザーのパスワードはデコーダーの<ユーザー>メニューで変更できます。
- 一般ユーザーは、<ビューアアクセス制限>の<Web Viewer>を有効に設定したら接続できます。詳細は、目次の「設定>システム設定>ユーザー」ページをご参照ください。
- すべての設定はデコーダーの設定によって適用されます。

デコーダーのパスワード設定

出荷時の状態にした後、ウェブビューアに接続する時、デコーダーのパスワードを設定する必要があります。

管理者アカウントのパスワードを入力して<Login>をクリックしてください。

The screenshot shows a password setting interface for 'WISENET'. It has fields for 'admin', 'Password', and 'Confirm Password'. There is a 'Show password' checkbox and a 'Login' button at the bottom.

-  ■ <①>をクリックすると、パスワード設定のための基本ガイドが表示されます。パスワード設定規則をご確認ください。

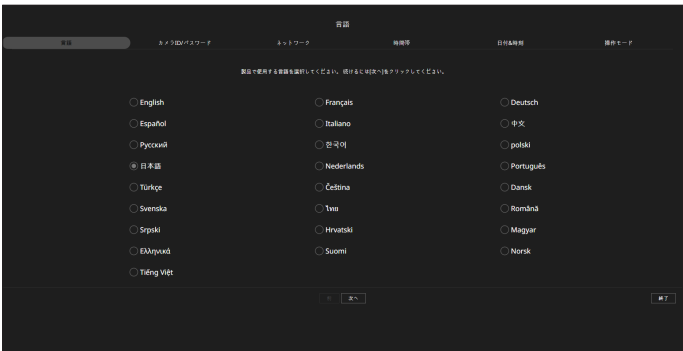
ウェブビューアの開始

インストールウィザード

以下のように<インストールウィザード>を段階別に行います。
インストールウィザードは出荷時の状態でのみ進入でき、行いたくない場合は<終了>をクリックしてください。

 ■ デコーダーでインストールウィザードを完了すると、ウェブビューアではインストールウィザードが表示されません。

1. <言語>画面で、言語を選択し、<次へ> ボタンを選択します。



2. <カメラID/パスワード>画面で工場出荷時の状態のカメラのパスワードを設定してください。
カメラにID/パスワードが既に設定された場合、該当のID/パスワードの登録後、<次へ>をクリックしてください。



 ■ パスワードが工場出荷時の状態の時は、一括変更して管理できます。
■ パスワードが設定されたカメラIDとパスワード登録は最大3セットまで可能です。
■ 「設定 > カメラ > カメラのパスワード」メニューで登録されているすべてのカメラのパスワードを一括に変更できます。
■ ONVIF及びRTSPで登録済みのカメラのパスワードは変更することができません。

3. <ネットワーク>画面でネットワーク接続方式と接続環境を設定した後、<次へ>をクリックしてください。

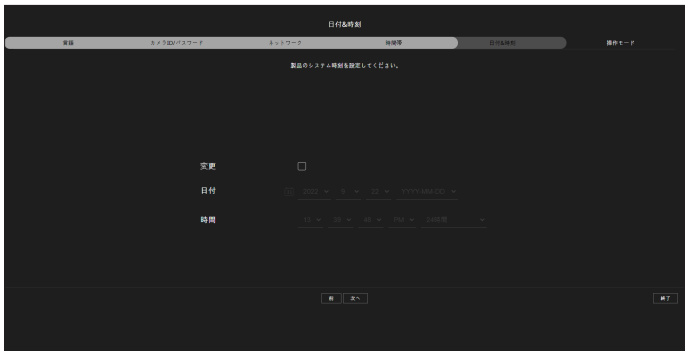


 ■ ネットワーク設定の詳細は目次の「スタート > インストールウィザード」ページをご参照ください。

4. <時間帯>画面でサマータイムを設定した後、<次へ>をクリックしてください。



5. <日付&時刻>画面で日付と時間を変更するには、<変更>チェックボックスを選択してください。日付と時間を設定した後、<次へ>をクリックしてください。



6. <操作モード>画面でデコーダーを制御できる操作モードを選択してください。



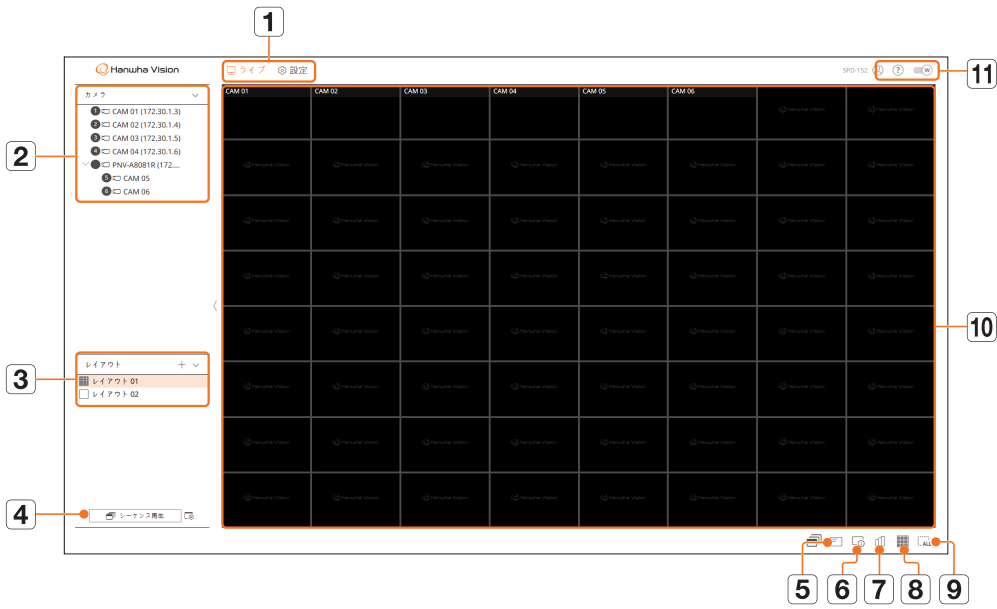
- スタンドアロン：デコーダーで、該当カメラのライブモニタリングと設定変更などの制御ができます。ウェブビューアでは、管理者アカウント情報と操作モードのみ変更できます。
 - WEB：デコーダーでは、該当カメラのライブモニタリングのみ可能で、設定変更や制御はウェブビューアでのみできます。
 - SSM：デコーダーではこのカメラのライブモニタリングのみ可能で、設定の変更や制御はSSMでのみ行えます。
7. インストールウィザードを完了するには、<次へ>をクリックしてください。

ライブビューア

ライブビューアでは、カメラの登録確認、レイアウトとシーケンス再生に関する設定、または画面の分割モードを変更できます。

 ■ <スタンドアロン>操作モードの場合、次のライブビューア画面構築を確認できます。

ライブビューア画面構築



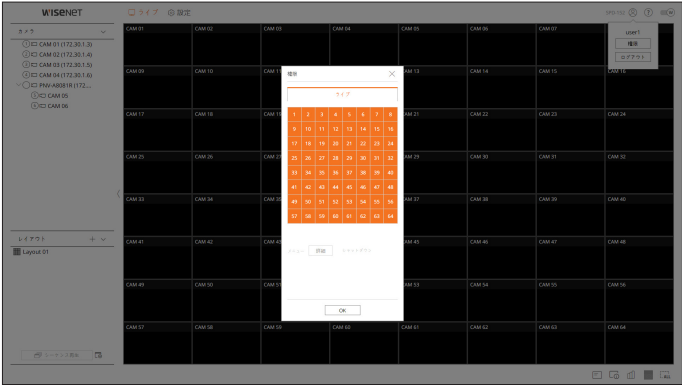
メニュー名	機能
1	メニュー
2	カメラリスト
3	レイアウトリスト

メニュー名	機能
4	シーケンス再生/設定
5	映像ウィンドウ
6	映像ウィンドウ
7	映像ウィンドウ

ユーザー情報の確認

ウェブビューアーにアクセスしたユーザーのIDと使用権限を表示します。<ログアウト>をクリックすると、接続中のユーザーがログアウトされます。

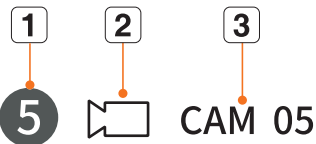
■ Adminアカウントでログインした場合には、権限設定の設定ウィンドウが表示されません。



カメラリスト確認

デコーダーに登録済みのカメラのタイプ、状態、名前を表示します。

ライブ > リスト



名称		機能説明
1	チャンネル情報	チャンネル情報を表示します。(チャンネル番号、映像ウィンドウの割り当て有無のカラー表示)
2	カメラタイプ	通常のカメラを表示します。
	カメラ状態	カメラエラー状態を表示します。
3	カメラ名	カメラに設定した名前を表示します。

- カメラに接続エラーが発生すると、リストで無効になります。
- カメラ状態表示情報はネットワーク接続状態および設定によって変更されます。
- Wisenetプロトコルで登録されたマルチチャンネルカメラの場合はマルチチャンネルカメラのモデル名の下にチャンネルの情報を表示します。

全体カメラの状態確認

接続された全体カメラの状態を確認できます。

ライブステータス確認

- < >をクリックしてください。各チャンネルに接続されたカメラ状態と転送情報を確認できます。
- プロファイル設定を変更するには、<カメラ設定>をクリックしてください。プロファイル設定に関する詳細は、目次の「設定 > カメラ設定 > プロファイル設定」ページをご参照ください。

状態						
ライブ						
CH	モデル	状態	IPアドレス	コーデック	解像度	フレームレート
1	XNP-6320	接続	172.30.1.3	H.264	1920x1080	30 fps
2	XNF-8010R	接続	172.30.1.4	H.264	640x640	15 fps
3	XND-8081VZ	接続	172.30.1.5	H.264	640x360	15 fps
4	XND-6081FZ	接続	172.30.1.6	H.264	640x360	15 fps
5	PNV-A8081R	接続	172.30.1.7	H.264	640x480	15 fps
6	PNV-A8081R	接続	172.30.1.7	H.264	640x360	15 fps
7						
8						
9						
10						

分割モード変更

- < >をクリックした後、分割モードを選択してください。
- 選択した分割モードが映像ウィンドウに適用されます。



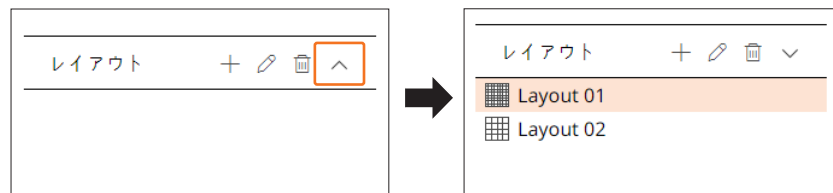
ライブビューア

レイアウト設定

使用目的と利便性に合わせてチャンネルをレイアウトにまとめて必要な時、すぐに確認できます。

ライブ>レイアウト

レイアウトリスト確認



- **+** : 新規にレイアウトを作成します。
- **✎** : レイアウトのチャンネルまたは名前を変更します。
- **🗑** : 追加されたレイアウトを削除します。
- **^ / v** : レイアウトリストを開けたり閉じたりします。

レイアウトの追加

1. **< + >** をクリックしてください。
2. **< 田田 >** をクリックして分割モードを選択してください。
3. カメラリストからレイアウト画面に表示するチャンネルをダブルクリックするかドラッグして映像ウィンドウにドロップしてください。
4. **< 田 >** をクリックして設定したレイアウトを保存してください。

- ✎** ■ レイアウトは各ユーザー別に別途保存されます。

レイアウト名の変更

1. 変更するレイアウトを選択した後、**< ✎ >** をクリックしてください。
2. レイアウト名を変更した後、**< 田 >** をクリックしてください。

レイアウトチャンネル変更

1. チャンネルを変更するレイアウトをダブルクリックして選択してください。
2. チャンネルを削除するには、チャンネルウィンドウにマウスオーバーした時、右上に表示される**< X >** をクリックしてください。
3. チャンネルを追加するには、カメラリストからカメラをダブルクリックするかドラッグして映像ウィンドウにドロップしてください。

レイアウトを削除する

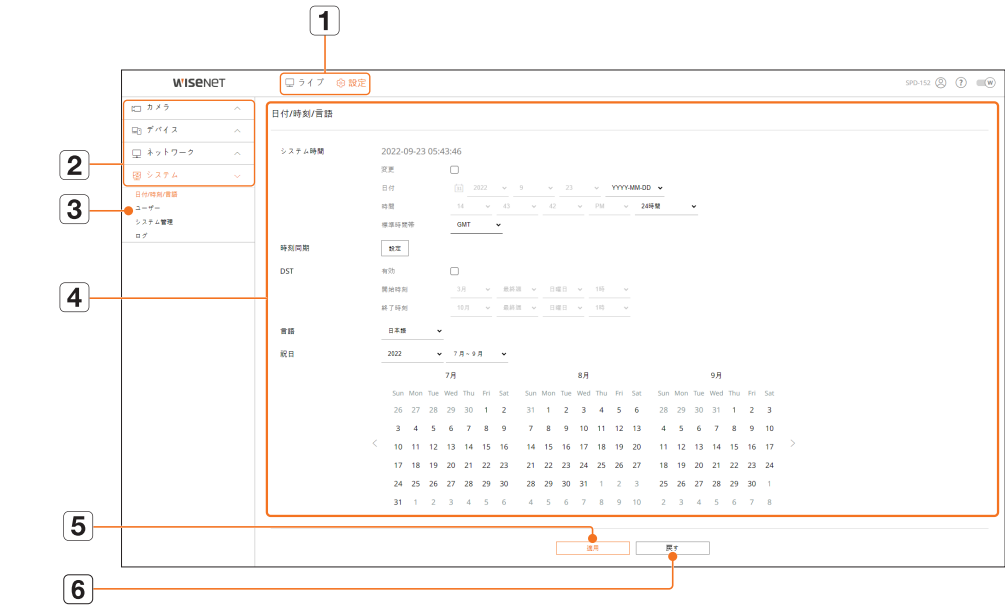
削除するレイアウトを選択した後、**< 🗑 >** をクリックしてください。

設定ビューア

ネットワーク上でリモートでデコーダーの設定ができます。

- <WEB>操作モードの場合、次の設定ビューア画面構築を確認できます。
- <スタンドアロン>操作モードでは、管理者アカウント情報と操作モードのみ変更できます。

設定ビューア画面構築



名称		機能
1	メニュー	各メニューをクリックすると該当するメニュー画面に切り替えます。
2	上位メニューリスト	設定したり、既存設定を変更したい項目の上位メニューを選択します。
3	下位メニューリスト	選択した上位メニューに対する下位メニュー中で設定する項目を選択します。
4	詳細メニュー	変更する項目を選択して設定を入力します。
5	適用	修正した設定を適用します。
6	戻る	変更する以前の設定に戻します。

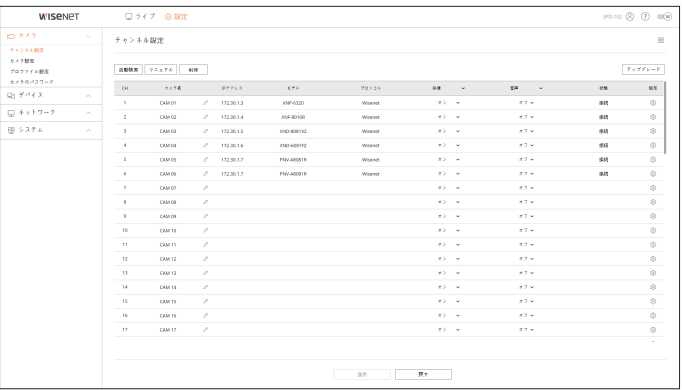
カメラ設定

デコーダーに接続されたカメラを検索して設定します。詳細は、目次の「**設定** > **カメラ設定**」ページをご参照ください。

チャンネル設定

チャンネルごとにネットワークカメラを登録・接続できます。

設定>カメラ>チャンネル設定

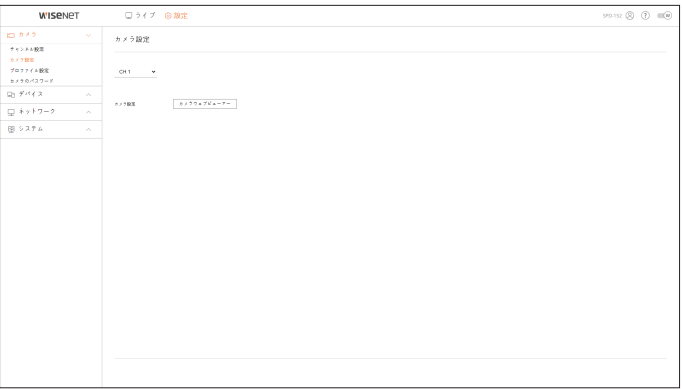


- <アップグレード>をクリックするとカメラのバージョン、アップグレードバージョン、状態を確認してアップグレードできます。

カメラ設定

チャンネル別に登録されたネットワークカメラの映像設定をカメラウェブビューア接続して変更できます。

設定>カメラ>カメラ設定

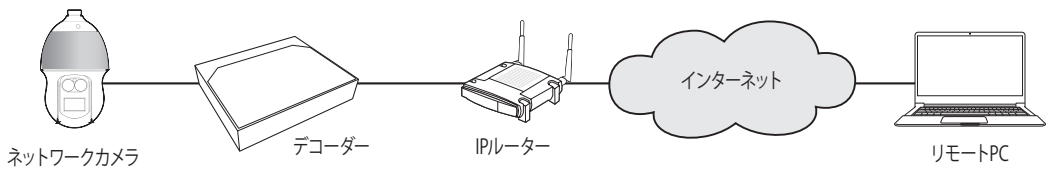


設定ビューア

- ・ <カメラウェブビューア>をクリックすると新たなカメラウェブブラウザウィンドウが開きます。
 - カメラがRTSPプロトコルに接続された場合には対応しません。
 - カメラがDDNSまたはURLに接続された場合は提供しません。
 - Q/P/Xシリーズのカメラでは下記バージョン以降からサポートします。(QND-7010Rシリーズ: 1.04、QND-7080Rシリーズ: 1.02、QND-6010Rシリーズ: 1.02、QND-6070Rシリーズ: 1.01、Pシリーズ: 1.01)
 - 閉鎖型ネットワークでカメラウェブページに接続する時、ユニバーサルウェブをサポートしていないカメラでは、画像を出力できません。
 - カメラプロキシポートの基本設定値はデコーダーに対応するチャンネル数だけ連続に自動設定されます。プロキシポートを変更するには、ポート設定で修正できます。
 - 4チャンネル(10001-10004)、8チャンネル(10001-10008)、16チャンネル(10001-10016)、32チャンネル (10001-10032)、64チャンネル (10001-10064)

例) 製品別のCAM プロキシポートの基本設定値

- ・ 4チャンネルのモデル: 10001-10004
- ・ 8チャンネルのモデル: 10001-10008
- ・ 16チャンネルのモデル: 10001-10016
- ・ 32チャンネルのモデル: 10001-10032
- ・ 64チャンネルのモデル: 10001-10064
 - 図に示すように、クローズドネットワーク外で接続する場合、カメラのプロキシポートのポートフォワーディング設定がルーターに要求されます。



- 閉鎖網内部にデコーダーが複数ある場合、カメラプロキシポートはそれぞれ違うポートに設定しなければなりません。
- DDNSとクイック接続が有効の場合、ポートフォワーディングは自動的に設定されます。
- Chrome、Edge、Safari (Mac OS)ブラウザに対応します。

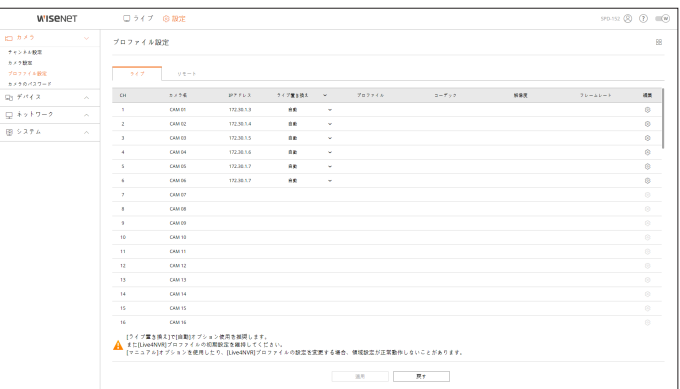
プロファイル設定

ネットワークカメラのプロファイルを設定できます。

設定>カメラ>プロファイル設定

ライブ

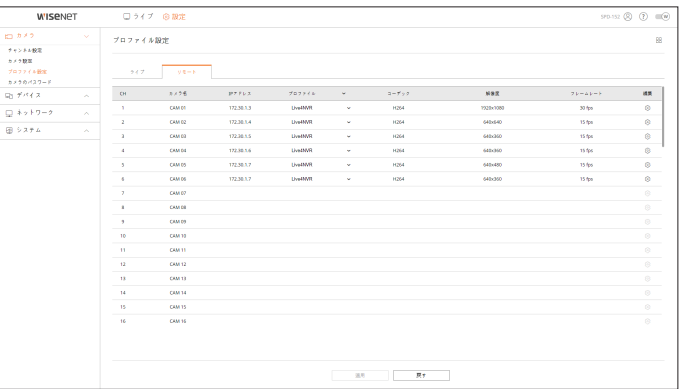
ネットワークカメラのライブ転送設定を変更できます。



- ・ <⚙️>をクリックすると、カメラウェブビューアに接続して設定を変更できます。

リモート

ネットワーク及びセカンダリモニターに転送する映像プロファイルを設定できます。



カメラのパスワード

登録済みのすべてのカメラのパスワードを一度に変更できます。

設定>カメラ>カメラのパスワード



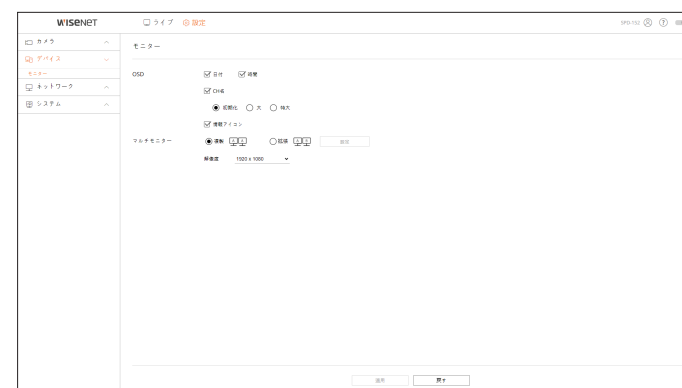
デバイス設定

モニターに関する詳細設定ができます。詳細は、目次の「**設定 > デバイス設定**」ページをご参照ください。

モニター

モニターに表示する情報、情報の位置、映像出力方式を設定できます。

設定>デバイス>モニター



- 画面が正常的に表示されない場合、付録の「よくあるご質問(FAQ)」をご参照ください。
- モニター設定では、デコーダーに接続されたモニターを設定できます。
- 解像度1080pを超過する映像はセカンダリモニターで出力されません。

設定ビューア

ネットワーク設定

詳細は、目次の「**設定 > ネットワーク設定**」ページをご参照ください。

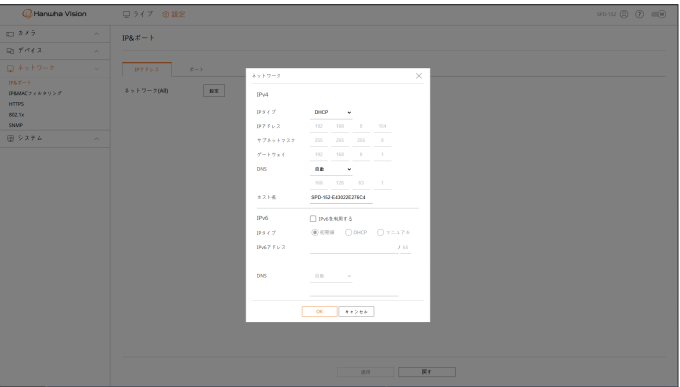
IP&ポート

リモートユーザーがネットワークでデコーダーに接続する時、モードやIPなどを確認・設定できます。

設定>ネットワーク>IP&ポート

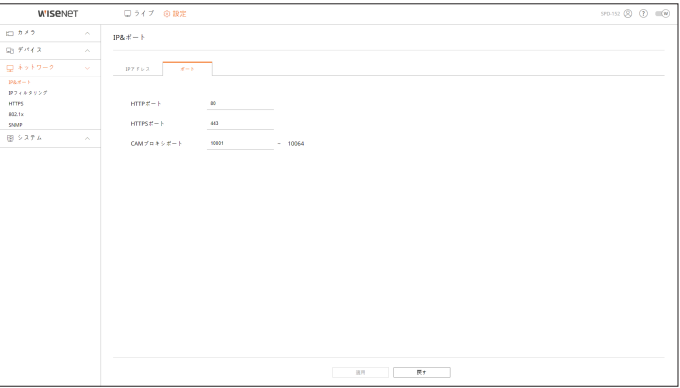
IPアドレス

ネットワーク接続情報を設定できます。



ポート

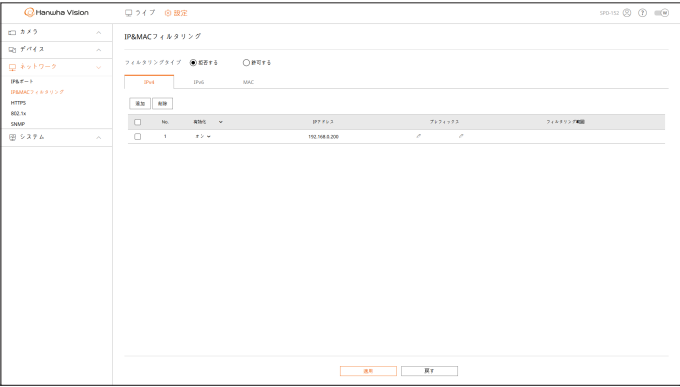
プロトコルに関する設定ができます。



IP&MACフィルタリング

特定のIPとMACについての接続を「許可する」または「拒否する」リストを作成できます。

設定>ネットワーク>IP&MACフィルタリング



HTTPS

セキュリティ接続システムを選択したり、公認証明書をインストールできます。

設定>ネットワーク>HTTPS

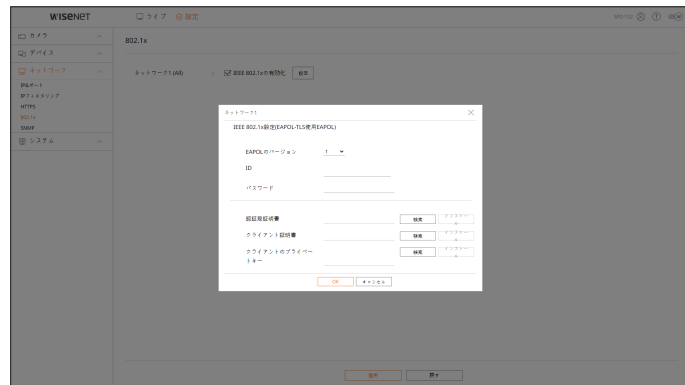


■ HTTPS使用中にHTTPへ切り替える場合、ブラウザに設定値が含まれているため、異常な動作が発生することがあります。URLをHTTPに変更して再接続するか、ブラウザのCookie設定を初期化すると正常動作します。

802.1x

ネットワークに接続するとき、802.1xプロトコルの使用可否を選択して証明書をインストールできます。

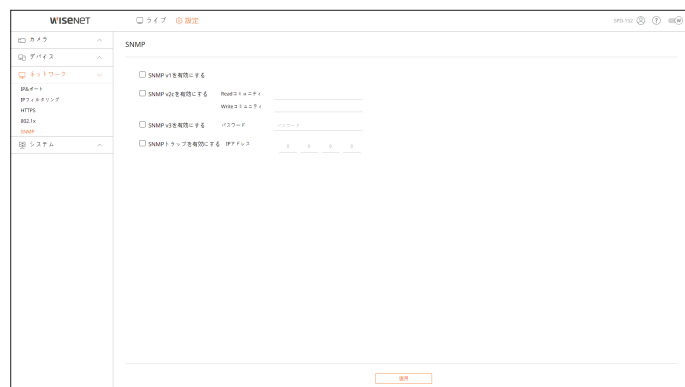
設定>ネットワーク>802.1x



SNMP

SNMPプロトコルを使用し、システムまたはネットワーク管理者がリモートでネットワークデバイスをモニタリングし、環境設定などの運用をすることができます。

設定>ネットワーク>SNMP



システム設定

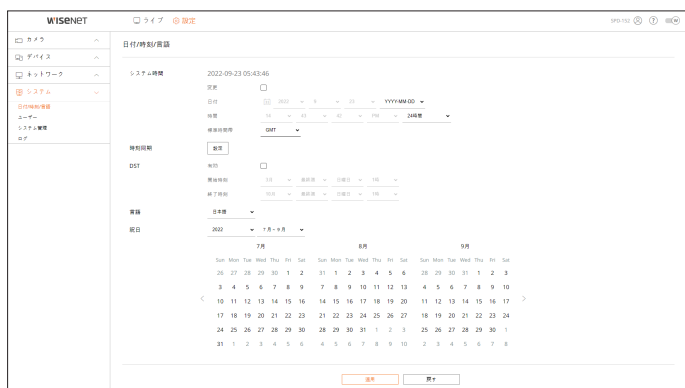
デコーダーシステムに関する環境を設定できます。

詳細は、目次の「**設定 > システム設定**」ページをご参照ください。

日付/時刻/言語

現在の日付と時刻、時間に関する設定を確認または変更したり、画面に表示される言語を設定できます。

設定>システム>日付/時刻/言語



システム時間

日付と時刻を設定してください。

時刻同期

時刻同期を設定してください。

DST

DST(Daylight Saving Time/サマータイムシステム)は、表示する時間をその地域の標準時より1時間早めた時間です。

言語

デコーダーに表示する言語を選択してください。

休日

特定の日付を休日として指定できます。

設定ビューア

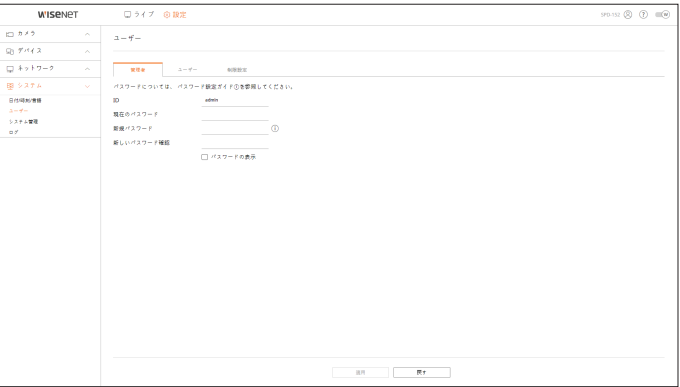
ユーザー

ユーザーの追加または削除、ユーザー別に異なる使用権限を与えるなど、ユーザー管理ができます。

設定>システム>ユーザー

管理者

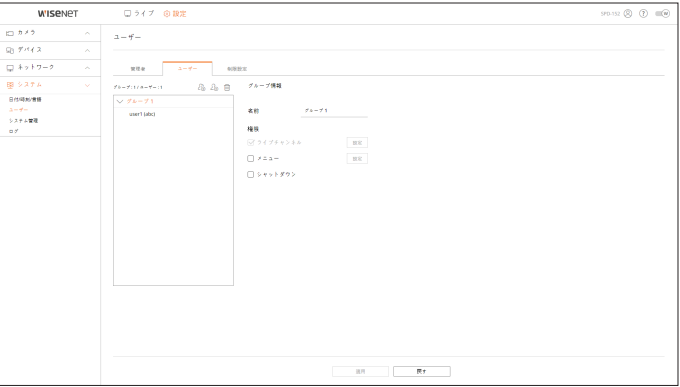
管理者IDまたはパスワードを変更できます。



- IDに使えるのは、大・小英数字です。
- 管理者IDでないIDで接続した場合、IDは変更できません。
- 使用されているIDが変更になった場合、自動的にログアウトされます。

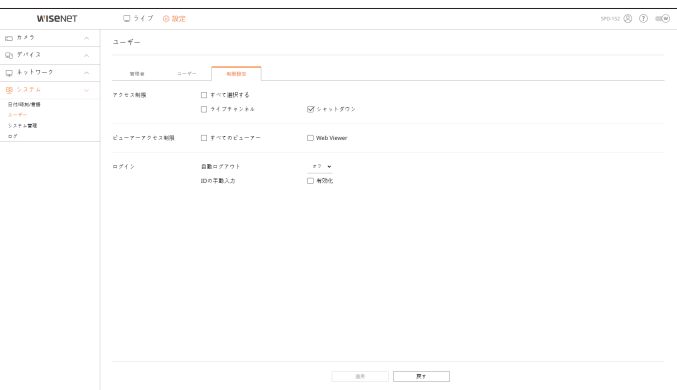
ユーザー

ユーザーを追加、変更または削除できます。



制限設定

ユーザーの権限を設定します。



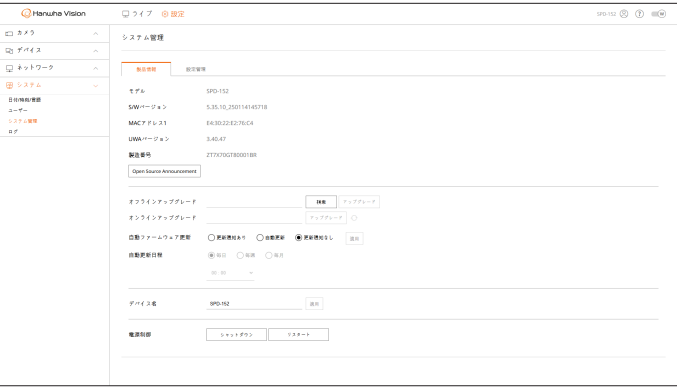
システム管理

現在のシステムバージョンを確認して新しいバージョンにアップデートしたり、データのエクスポート、設定初期化などを実行できます。

設定>システム>システム管理

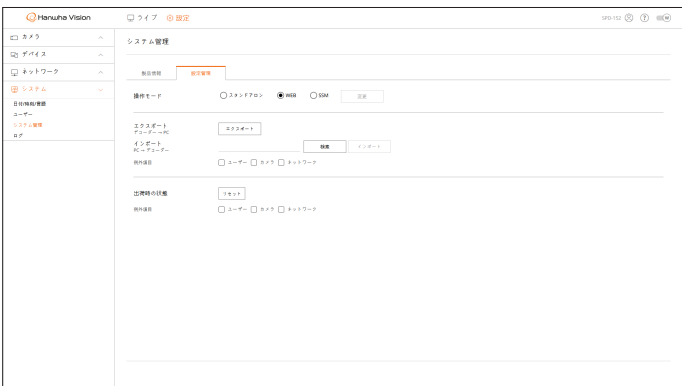
製品情報

現在のシステムバージョンやMacアドレスを確認でき、ソフトウェアをアップグレードできます。



設定管理

デコーダーを制御できる操作モードを設定できます。また、使用中のデコーダの設定情報を他のデコーダーに同じように適用したり、製品を初期化できます。<例外項目>選択項目は初期化されません。



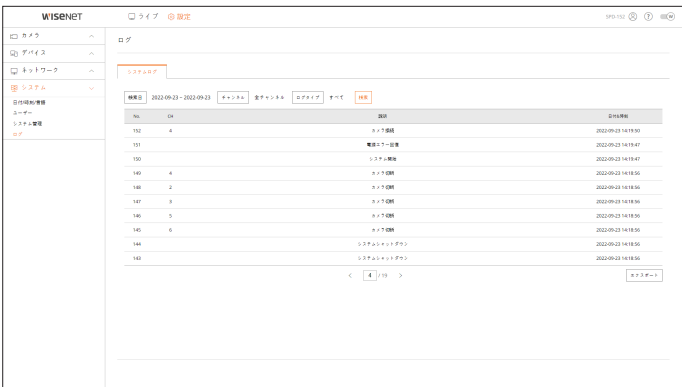
ログ

システムに関するログ情報を確認できます。

設定>システム>ログ

システムログ

システムログに記録されるデータは、システムの起動、システムの終了、メニュー設定の変更など、システムに関するログ内容と実行された日付と時間を表示します。



仮想キーボードの使用



1. アルファベットや数字の入力用に仮想キーボードウィンドウが表示されます。
2. マウスを使用して文字のタブをクリックしてください。
3. <OK>を選択してください。入力した単語が適用されます。
 - 大文字や特殊文字を入力するには、<Caps lock>か<Shift>を選択してください。
 - キーボード使用法は、通常のキーボードと同じです。
 - IDはローマ字の大文字と小文字、数字を組み合わせて設定できます。
 - パスワードの長さが8文字以上9文字以下の場合、ローマ字の大文字&小文字、数字、特殊文字の中から3つ以上を組み合わせて設定します。
 - パスワードの長さが10文字以上の場合、ローマ字の大文字&小文字、数字、特殊文字中の中から2つ以上を組み合わせて設定します。

よくあるご質問(FAQ)

問題点や症状	対策
ライブ映像が遅くなったり、途切れて見えます。	• ネットワーク環境やカメラから複数のデータを転送する時の負荷で設定されたフレーム数通りに入力できない場合があります。画面の下にある<ⓐ>をクリックしてチャンネル別に入るフレーム数と実際に再生するフレーム数を確認できます。カメラ登録時にLive4NVRプロファイルが基本的に生成されます。必要な場合「設定> カメラ> プロファイル設定> 編集」でフレーム数を変更してください。 • 映像の速度が落ちたり、中断したりする状況が続く場合、ネットワーク環境やカメラの状態をご確認ください。
システムの電源が入らず、システムの前面部にあるLEDもまったく動作しません。	• システムの電源が正しく接続されているかをご確認ください。 • 入力されている電源の電圧をご確認ください。 • 上記の項目を確認した後も電源が入らない場合は、パワーサプライを点検または交換してください。
映像は入力されている状態ですが、一部チャンネルの映像が出力されなかったり、黒い画面または白黒などで非正常出力されます。	• カメラの電源をご確認ください。 • カメラに接続されたケーブルを点検してケーブルを交換したり接続解除してから、再接続してください。 • カメラのウェブビューアに接続して映像出力をご確認ください。 • システムのネットワークポートが正しく接続されているか、ネットワークが正しく設定されているかをご確認ください。 • ネットワークに接続されたハブを、ギガビットをサポートするハブに交換したら解決される場合があります。
画面上にロゴ画像が繰り返し表示されます。	• メインボードもしくはソフトウェアが破損している可能性があります。サービスセンターに連絡して点検を行ってください。
接続されたモニターの画面が出力されなかったり、異常に出力されます。	• ケーブルがモニターに正しく接続されているかをご確認ください。 • モニターでデコーダーの出力(HDMI1 または HDMI2)に対応しないことがあります。モニターの対応解像度をご確認ください。 – HDMI1：3840x2160(30 Hz)、1080P、720P、1280x1024 – HDMI2：1920x1080、1280x720、1280x1024、1024x768 • デコーダーに接続されたモニターケーブルを取り除いた後、再接続してください。
ライブ画面でPTZをコントロールしても応答しません。	• 登録されたカメラがPTZ機能に対応するかをご確認ください。
カメラが接続されなかったり、PCを製品に接続できません。	• ネットワークケーブルが正しく接続されているかをご確認ください。 • ネットワーク - 接続モードが設定されているかをご確認ください。 • PCまたはカメラのIP設定をご確認ください。 • PINGテストを行ってみてください。 • 製品の近くに同じIPを使用する別のデバイスがないかご確認ください。
入力されたカメラ映像が明るすぎるか暗すぎます。	• 「設定 > カメラ > カメラ設定」で登録されたカメラの設定を確認してください。

問題点や症状	対策
時間設定ポップアップが発生します。	デコーダーの内蔵時計の時刻設定に問題があるか、時計に関する部分からエラーが発生した場合に表示されます。A/S 及び購入先に連絡して点検を行ってください。
外部ストレージデバイス(USBメモリ)をデコーダーに接続した後、接続結果が表示されません。	接続した外部ストレージデバイスを認識できない場合は、「設定 > システム > システム管理 > 設定管理」メニューでストレージデバイスをフォーマットしてから再度ご確認ください。
ルーターを使用する場合に関するネットワーク設定ができません。	- ネットワーク接続のためにルーターを使用する場合は、クイックガイドの「ルーターを用いてネットワーク接続」をご参照ください。 - 詳細情報はルーターの取扱説明書をご参照ください。
パスワードを忘れました。	デコーダーのインストール担当者にお問い合わせください。

